

ibiTM WebFOCUS[®]

リリースノート/新機能ガイド

バージョン 9.0.5 | November 2023

目次

1. バージョン 9.0.5 リリースガイド	7
バージョンおよびビルド情報	7
修正済み問題	7
アップグレードに関する注意事項	15
2. バージョン 9.0.4 リリースガイド	17
バージョンおよびビルド情報	17
修正済み問題	17
アップグレードに関する注意事項	22
既知の問題	22
3. バージョン 9.0.3 リリースガイド	23
バージョンおよびビルド情報	23
新機能	23
ロード時のマルチレイヤマップのレイヤヘズーム機能.....	24
修正済み問題	24
アップグレードに関する注意事項	30
既知の問題	30
4. バージョン 9.0.2 リリースガイド	33
バージョンおよびビルド情報	33
新機能	33
検索インデックス機能.....	34
インデックスオプション.....	34
マルチレイヤマップへのブックマークの追加.....	39
WebFOCUS Hub から複数のサーバコンテンツへのアクセス改善.....	39
Reporting Server ブラウザインターフェースからの FOCUS として実行機能.....	41
プロシジャのインタラクティブ実行.....	41
修正済み問題	42
アップグレードに関する注意事項	47
ESRI ラスタベースマップの廃止	47
既知の問題	48

5. バージョン 9.0.1 リリースガイド	49
バージョンおよびビルド情報	49
新機能	49
TIBCO WebFOCUS Hub での Instant Insights の生成.....	50
新しい Instant Insights での関連性表示.....	50
TIBCO WebFOCUS DESIGNER のデータタブへのダイレクトナビゲーション.....	51
TIBCO WebFOCUS Reporting Server 接続によるグループメンバーシップの転送.....	51
Kerberos セキュリティを使用した Linux ベースの TIBCO WebFOCUS Reporting Server でのローカルユーザ ID の省略	52
修正済み問題	52
アップグレードに関する注意事項	54
6. バージョン 9.0.0 リリースガイド	55
バージョンおよびビルド情報	55
新機能	55
TIBCO WebFOCUS コンテナエディション.....	56
TIBCO WebFOCUS DSML サービスのコンテナエディション.....	57
TIBCO WebFOCUS Hub.....	58
TIBCO WebFOCUS DESIGNER のデータタブの機能強化.....	59
TIBCO WebFOCUS DESIGNER のページコンテナの強化.....	59
TIBCO WebFOCUS DESIGNER での HOLD ファイルの作成.....	60
複数ディメンショングラフでのオートドリルダウン結果のフィルタ.....	60
TIBCO WebFOCUS DESIGNER のマルチレイアマップ.....	64
指定数でのビンの作成.....	66
日付時間フィールドのフィルタ.....	67
新しいデフォルトオートプロンプトテンプレート.....	69
Instant Insights の時系列グラフ.....	70
Excel テーブルでのデータの出力.....	71
Excel テーブル.....	71
集約ページのコンテナでの Analytic Document オプション.....	72
垂直グリッドでのフィルタコントロールの表示.....	74

データフロー間でのオブジェクトのコピーおよび貼り付け機能.....	76
データフローのパフォーマンス強化.....	76
クラウド環境での ESRI 認証方法.....	77
REST API を使用した Google Mail アダプタ	77
新しい Apache Parquet アダプタ.....	77
SharePoint でのサイトアクセス制限のサポート.....	77
gzip 解凍での C ベース機能の使用.....	78
修正済み問題	78
アップグレードに関する注意事項	87
ESRI 人口統計レイヤの廃止と追加	89
既知の問題	90
ブラウザ情報	90
7. リリース情報	91
ブラウザ情報	91
ibi WebFOCUS のアクセシビリティ準拠	95
アクセシビリティのサポート基準.....	95
適合ステータス.....	96
アクセシビリティ機能の範囲.....	96
テクノロジー仕様.....	97
制限事項.....	98
ibi TM WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム	99
ibi WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート	100
サポート対象の Web サーバおよび Application Server	100
WebFOCUS Client リポジトリでサポート対象の RDBMS およびドライバ	101
ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項	103
国際言語サポート (NLS).....	104
ローカライズ版のサポート (NLV).....	104
ibi WebFOCUS および ibi WebFOCUS Reporting Server.....	104
言語.....	105
ibi WebFOCUS Client および ReportCaster.....	107

ibi WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート	107
ibi WebFOCUS レポートフォーマットおよび Microsoft 製品との関連付け.....	108
ibi WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office 製品のサポート...	109
Microsoft Office 2003 のサポート.....	109
ibi WebFOCUS EXL2K および PPT フォーマットと Microsoft Office Viewer 製品のサポ ート.....	109
Microsoft Office 365 のサポート.....	110
ハイパーリンクを使用してレポートを実行する際の注意事項.....	110
ibi WebFOCUS の DOC フォーマット.....	111
Legal and Third-Party Notices	113

1

バージョン 9.0.5 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、[ibi WebFOCUS 製品ドキュメントサイト](#)にアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス

- ❑ [バージョンおよびビルド情報](#)
- ❑ [修正済み問題](#)
- ❑ [アップグレードに関する注意事項](#)

バージョンおよびビルド情報

リリース日	ビルド番号	Reporting Server
2023 年 9 月	wf091823a	905 Gen 2372
	wi091823a	
	as091423a	

修正済み問題

- ❑ Analytic Document で日付時間フィールドでソートすると、誤った結果が表示される場合があります。(02150480)
- ❑ AHTML レポートのスタイルシートで HFREEZE ON が使用されている場合、リストツール機能を使用すると、表示されるソート順序が正しくなりません。(02173662)
- ❑ DESIGNER のプレビューモードで列グループ (ACROSS) を使用すると、条件付きスタイルが正しく表示されません。(02176377)
- ❑ AHTML レポート出力で HFREEZE=ON が使用されている場合、ページ区切りが期待どおりに動作しません。(02185224)

- ❑ WebFOCUS ポータルを右クリックして [実行] を選択しても、WebFOCUS ポータルが実行されません。(02162644)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の [データ] タブからビジュアライゼーションを作成する場合、レポートを保存してから再度編集すると、レポート内の HOLD ファイルへの参照が変更されるため、期待されるデータが出力されません。(02142300、02148621)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の後続のセッションでビジュアライゼーションが参照された場合、一時プレビューフォルダのパス名が HOLD マスターファイルパスに含められるため、データソースが見つからないというメッセージが表示されます。(02165900)
- ❑ オートプロンプトで、選択リストに割り当てられたフィルタパラメータは、最初にレポートを実行したときには表示されますが、ログアウトして再度ログインしてからレポートを再実行すると表示されません。(02158179)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、HOLD ファイルに DEFINE フィールドが含まれている場合、「FIELDNAME NOT RECOGNIZED」というメッセージが表示されます。(02180100)
- ❑ Restful API を使用してプロパティに値を割り当てた場合、ユーザはレポートキャッシュ機能を無効にすることができません。(02148782)
- ❑ WebFOCUS Cloud 環境でユーザが [リフレッシュトークンの取得] をクリックすると、404 エラーメッセージが返されます。(02139279、02144646)
- ❑ バージョン 9.0.3 で、Tomcat の ibi_apps.xml ファイルで使用される UNC マッピングフォルダが動作しなくなります。(02140630)
- ❑ 大規模なりポジトリデータベースを使用する場合のパフォーマンスが改善されています。この修正は、WebFOCUS へのログインおよび WebFOCUS Hub へのアクセスに影響します。
- ❑ レポート出力キャッシュ機能が有効になっていて、多数の列を含むレポートが 2 回以上実行された場合、ユーザはエラーを受信します。(02145223)
- ❑ Db2 環境で、作成済みのワークスペースから [マイコンテンツ] フォルダが削除されます。(02176670)
- ❑ InfoAssist で、バージョン 9.1.1 にアップグレード後、以前のバージョンで動作していた一部のレポートが内部例外エラーメッセージを受け取るようになります。(02179361、02186364)
- ❑ [アプリケーションコンテキスト] 設定を更新しても、ユーザが [アプリケーションキャッシュ] 設定に割り当てられた値を変更するたびに、値がデフォルト値に戻ります。(02156341、02156352)

- ❑ ISO-8859-1 または ISO-8859-15 エンコードを使用する WebSphere Application Server (WAS) で特殊文字を含むレポートを実行すると、エラーが発生します。(02170040)
- ❑ WebFOCUS Git オプションの [コミットとプッシュ] コマンドの使用時に、サブフォルダレベルに新しいプロシジャが存在する場合、変更または更新されたプロシジャはリモートリポジトリにプッシュされません。(02154386)
- ❑ モバイルデバイスにツールヒントが表示されません。(02178604)
- ❑ バージョン 8.1 SP05 から 8.2.06 にアップグレード後、InfoAssist でレポートを開くと、コード：1024 エラーメッセージが表示されます。(02198566、02127588)
- ❑ WebFOCUS バージョン 9.0.3 (Hotfix 8、9、10 を含む) のインストールでは、キーフィールド名またはセグメント名の不一致が原因で、InfoAssist でプロシジャをロードできない場合があります。(02152660)
- ❑ シノニムで定義済みのフィルタを使用する HOLD ファイルを使用するレポートは、期待どおりに実行できますが、InfoAssist で作成、編集することはできません。(02152031)
- ❑ InfoAssist アプリケーションウィンドウで、レポートの [フィルタ] ウィンドウからオプションのフィルタを削除しても、フィルタはレポートプロシジャコードから削除されません。(02040817)
- ❑ バージョン 8.2 SP02 で作成された DEFINE および HOLD を含む InfoAssist レポートを編集すると、「ページが応答しません」メッセージが生成され、CPU 使用率が増加します。(02037161)
- ❑ UTF-8 コードページを使用するよう構成された InfoAssist インストールで、繁体字中国語の文字に基づく DEFINE フィールド名を含むレポートプロシジャを実行しようとする、ページが応答しないことを示すメッセージが返されます。(02159878)
- ❑ InfoAssist でフィルタを作成して <値> に対する実行時入力パラメータを選択する場合、文字列を含む、文字列を含まない、文字マスクなどの一部の関係演算子が、ドロップダウンリストに表示されません。(02175422)
- ❑ Quick Data でレポートを保存する際、一部の操作によって、WebFOCUS Reporting Server のライセンスキーを検証できないためローカルホストに接続することを示すメッセージが表示される場合があります。(02159620)
- ❑ App Studio で、出力フォーマット (&WFFMT) のタイプを選択するコントロールを含む HTML ページを実行すると、コントロール内の表示値の前に文字列が追加されます。(02098390)

- ❑ App Studio で一部の操作を実行した場合、HTML キャンバスの [リクエストとデータソース] パネルが動作しなくなります。(02149067)
- ❑ App Studio で Google Chrome または Microsoft Edge ブラウザを使用している場合、有効なユーザ認証資格情報を含む foccache セッションが維持されないため、App Studio ユーザは、最初のフォームベース認証または Kerberos 認証の後に、WebFOCUS へのログインが要求されます。(02151640)
- ❑ App Studio で window.opener を使用して新しいウィンドウから親ウィンドウの値を選択すると、「TypeError: Cannot read properties of null」というエラーメッセージが表示されず。(02152208)
- ❑ App Studio で、HTML ファイルに別のフォルダに存在する類似の HTML ファイルから以前に選択された値が表示されます。(02147026)
- ❑ バージョン 8.2 SP01M から 9.0.3 にアップグレード後、App Studio で HTML ページがロードされません。(02150368)
- ❑ App Studio で、プロシジャの実行中にセッションが応答しなくなります。(02144012)
- ❑ App Studio で、HTML ページのロード時に -DEFAULT と -DEFAULTH の変数値が設定されません。(02158881)
- ❑ App Studio で、自動生成されたブラウザ依存のプロセスが App Studio セッションが閉じられるまで終了しないため、前のリクエストが完了するまで新しいリクエストの実行が遅れます。(02179883)
- ❑ App Studio をバージョン 8.1 SP05M から 9.0.4 にアップグレード後、ドロップダウンリストを含む HTML コンポーザページを実行すると、[表示フィールド] の値が表示されなくなります。(02175956)
- ❑ App Studio で、Microsoft Edge、Google Chrome、Firefox の Selenium ブラウザが事前に定義された Cookie を送信しないため、開発者は HTML ページへのフルアクセスを確認することができません。(02177179)
- ❑ App Studio で、ダブルリストボックスにすべての値ではなく、50 個の値のみが表示されます。(02185286)
- ❑ App Studio で、カレンダーコントロールに対して [フォーマットなしの値を送信] オプションを選択した場合でも、HTML ページで [選択項目を保存] と日付を選択すると、日付パラメータにスラッシュのフォーマットが設定されます (例、「20230531」ではなく「2023/05/31」)。(02187711)

- ❑ App Studio で、PPTX 出力フォーマットでダウンロードしたドキュメントを開くと、ポップアップエラーウィンドウが表示されます。(02180186)
- ❑ [選択] オプションが [すべて] に設定され、デフォルトオートプロンプトテンプレートが [デザイナ] に設定されている場合でも、オートプロンプトの選択リストに [選択なし] の値が表示されます。(02122330)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、[ファイルにエクスポート] コマンドの値を [縦] または [横] に設定すると、レポートに余分な空白が表示されます。(02155327、02172019)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、ビジュアライゼーションのフィルタバーに割り当てられたマスターファイルフィルタで、ユーザがオプションを選択する必要があります。(02157840)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、ユーザがマスターファイルフィルタをダブルクリックすると、「AddIsFilter」エラーメッセージが表示されます。(02157838)
- ❑ レスポンシブビューでポータルのサイズを変更すると、ポップアップウィンドウにタイトルセクションとブランクの選択ポップアップウィンドウが表示されます。
- ❑ DESIGNER オートプロンプトテンプレートが [デザイナ] に設定されている場合、IBIMR_domain および IBIMR_fullpath に誤った値が表示されます。(02166402)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、フィールド名の文字が DBCS の場合、パラメータがドリルダウンに渡されません。(02164709)
- ❑ ポータルビューで、BasicUser、AdvancedUser、GroupAdmin ユーザグループに割り当てられたユーザに、非表示に設定されたコラボレーションポータルおよび DESIGNER ポータルが表示されます。(02163065)
- ❑ WebSEAL で保護された環境で WebFOCUS を使用し、新しい変更管理シナリオを作成しようとする、「404 - ページが見つかりません」というエラーメッセージが表示される場合があります。(02117053)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER ポータルでは、ユーザメニューが AODA (Accessibility for Ontarians with Disabilities Act) に準拠していませんでした。(02147233)
- ❑ 実行時に表示されるカレンダーコントロールに、[前月] ボタンと [次の月] ボタンが表示されません。(02160748)
- ❑ AHTML レポート出力を指定した Analytic Document レポートで、見出しまたは脚注に <FIELDNAME オプションが設定されている場合、エラーが発生します。(02190393)
- ❑ App Studio MAINTAIN のマイグレードで、静的チェックボックスが事前設定されていないため、値を受け取ることができません。(02131843)

- ❑ App Studio MAINTAIN で、単一選択リストボックスと複数選択リストボックスを含むフォームが更新されると、これらのリストボックスで選択された値が変更されます。
- ❑ バージョン 8.0 から 8.2 にマイグレートすると、App Studio MAINTAIN で FORM1.HTMLTABLE.CLICKROW が誤って変換され、フォームに正しく入力されなくなる可能性があります。(02131843)
- ❑ App Studio MAINTAIN で、ClickRow プロパティを含む単純な HTML テーブルをマイグレートすると無効なコードが生成されます。(02071247)
- ❑ Developer Studio から App Studio の MAINTAIN にマイグレートされたアプリケーションには、正しくない構文が含まれ、動的変数の一部が欠落する可能性があります。(02161257、02131843)
- ❑ ReportCaster で言語が日本語に設定され、nlscfg.err ファイルが更新されていない場合、ブラックアウト期間の情報が Distribution Server で文字化けします。(02120166)
- ❑ ReportCaster でスケジュールを複製しようとする、「ibi.broker.api.data.CasterException：検証エラー：'execPassword' の値が必要です。エラーコード：MSGV0004」というメッセージが表示されます。(02116371)
- ❑ ReportCaster バージョン 9.0.2 以降で、バージョン 8.1 SP05 の配信リスト (Distribution Server データベースのハンドルによって場所を識別) は、保存しない限り、取得して新しい配信のアドレス帳として使用することができません。(02164026)
- ❑ 見出しで DBCS が 1067 文字以上に設定されている場合、XLSX 出力フォーマットを使用するレポートが失敗します。(02113137)
- ❑ 最初のページに十分な空きスペースがある場合でも、ラインフィード (LF) 機能によって、PDF レポートが 2 ページに分割されます。(02077512)
- ❑ バージョン 8.2.07.28.13 以降で、*ibi¥srv82¥wfs¥etc¥fontuser.xml ファイルに EUDC セクションが含まれている場合、ユーザ定義文字 (EUDC)、Times New Roman などのその他のフォントが、PDF 出力に期待どおりに表示されません。(02157055)
- ❑ SET EMPTYREPORT コマンドを使用するレポートに見出しと ACROSS 句も含まれている場合、見出しに追加の文字が表示されるため、Excel 出力でファイルが破損していることを示すメッセージが返されます。(02156515)
- ❑ XML ファイルを解析する場合、パーサが外部エンティティへのアクセスを無効にしないため、ペイロードが有効になり、サーバが予期しない処理を実行する可能性があります。(02143664)

- ❑ Vertica Server バージョン 11 以降で、JDBC ドライバテーブルにデータタイプとしてブール値が含まれている場合、true と false の両方としてゼロ (0) の値が返されます。(02130672)
- ❑ REST Web サービスを記述するマスターファイルに対してレポートを作成し、広範囲にわたる日付セットを選択すると、FOC42271 エラーメッセージが表示されます。(02146592)
- ❑ Data Migrator で、REST アダプタに送信された再認証リクエストが JSON ではなく XML で返されるため、アダプタが応答を停止します。(02154644)
- ❑ Amazon Athena アダプタ接続で、マルチバイト文字を含むフィールド名を使用してレポートを実行すると、SQL エラーが発生します。
- ❑ HP Vertica アダプタを使用する場合、DESIGNER の [DEFINE] タブに誤った UTF-8 文字列が表示されます。(02174890)
- ❑ WebFOCUS バージョン 8.2.07.28.14 では、Snowflake ローカル一時テーブルの PERSISTENCE VOLATILE が実装されていないため、マイグレートに失敗します。(02195158)
- ❑ Google BigQuery アダプタで、単一リージョンで非同期クエリを実行すると、エラーが発生する場合があります。(02180638、02197460)
- ❑ マスターファイルで日付が USAGE=MDYY として定義されている場合、Windows x86_64 システムで、WebFOCUS ODBC クライアント (setup_odbc_client) を展開してサードパーティ製品と統合することができません。(02177954)
- ❑ DEFINE ステートメントで DT_FORMAT 関数を使用すると、「SQL コード : 8116」というエラーメッセージが返されます。(02131685)
- ❑ [式の詳細設定] で DEFINE フィールドを作成した場合、ファイルを再度開いたときにフィールド名が変更されます。(02152428)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、レポートを作成してプライマリファイルに基づいてビジュアライゼーションとして保存すると、HOLD ファイルパス参照が foccache パスに変更されます。(02148621)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、二重引用符 (") を含まない動的フィルタ条件でレポートを作成して保存した場合、レポートを編集して再度保存すると、二重引用符が自動的に追加されます。(02150029)
- ❑ InfoAssist Basic で大規模なマスターファイルに基づくレポートを編集する場合、フィルタの追加や削除などのアクティビティに対する応答が遅くなります。(02111797)

- ❑ Data Migrator のデータフローユーザインターフェースで、更新されたデータフローを保存するときに、変換計算ツールの値 MISSING = ON が保存されません。(02147139)
- ❑ Data Migrator で、メタデータ管理の [テキストとして編集] オプションを使用して大規模なマスターファイルのメタデータを編集すると、サーバ HTTP リスナが応答を停止する場合があります。(02159936)
- ❑ Data Migrator バージョン 9.0.3 で、バージョン 8.2 SP03M で作成された DBMS SQL フローを実行すると、エラーメッセージが表示されます。(02159197)
- ❑ Data Migrator バージョン 9.0.3 で、ユーザはバージョン 8.2.00 で作成されたデータフローに加えた変更を保存できません。(02160373)
- ❑ FPRINT 関数は、An フィールドの AnV フォーマットを受容しません。(02170093)
- ❑ 大規模な XFOCUS ファイルをロードすると、SOC1 による異常終了が発生する可能性があります。(02151448)
- ❑ クロスリファレンスを含むマスターファイルからプロシジャを実行すると、プロシジャが失敗します。(02155564)
- ❑ 255 を超えるパーティションを含むアクセスファイルへの TABLE リクエストにより、FOCSORT の FOC198 エラーメッセージが発生する場合があります。(02148522)
- ❑ WebFOCUS バージョン 9.0.4 でファイル名が指定されていない場合、セグメントの短縮名が認識されません。(02175342)
- ❑ バージョン 8.2.07.28 から 9.0.4 にアップグレード後、JO の JOIN 名にセグメントの短縮名が使用されている場合、「フィールド名が認識できない」というエラーメッセージが表示されます。(02171975)
- ❑ プロシジャファイルで条件を使用する場合、スペース文字 ()、プラス文字 (+)、マイナス文字 (-) の動作が区別されません。ASIS 関数を使用すると、これらの文字は期待どおりに動作します。(02135337)
- ❑ MVS で実行されている Reporting Server に割り当てられた edasprof.prf ファイルで DYNAM SET TEMPALLOC MVS 設定を使用すると、InfoAssist で修復できないエラーメッセージが生成されます。(02031290、02149418)
- ❑ [ディファードステータス] ダイアログボックスの [リフレッシュ] ボタンを繰り返しクリックすると、TCP/HTTP リスナのメモリ破損が発生するため、リスナがクラッシュします。(02167983)

- ❑ Reporting Server の dfm_dir ディレクトリに多数のディファードレポートが保存されている場合、単一レポートの取得で Client のパフォーマンスの問題が発生します。(02173572)
- ❑ Reporting Server ブラウザインターフェースの [ディスクへのアプリケーションマッピング] オプションを使用して DBCS 文字を含むフォルダをマッピングすると、マッピングパスが無効 (SJIS) であることを示すメッセージが表示されます。(02180716)
- ❑ edasprof.prf ファイルで ARVERSION=2 を設定した後、ビジュアライゼーションの作成時に、「Uncaught TypeError」エラーメッセージが表示されます。(02112055)
- ❑ カスタム円ラベルが PDF 円グラフに表示される際に、円イメージまたは他のラベルと重なる場合があります。(02079559)
- ❑ 最新バージョンの WebFOCUS に追加された新しい IBFS_arg0 パラメータに引数がないため、clearBFSCache RESTful サービスは WebFOCUS Client のキャッシュをクリアしません。(02150339)

アップグレードに関する注意事項

- ❑ バージョン 9.0.5 以降、WebFOCUS ソース管理および Reporting Server の Git アダプタを使用するには、環境で Java 11 が構成されている必要があります。

2

バージョン 9.0.4 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、[TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイト](#)にアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス

- ☐ [バージョンおよびビルド情報](#)
- ☐ [修正済み問題](#)
- ☐ [アップグレードに関する注意事項](#)
- ☐ [既知の問題](#)

バージョンおよびビルド情報

リリース日	ビルド番号	Reporting Server
2022 年 12 月	wf120722a	904 Gen 2368
	wi120722a	
	as120522b	
	ds120222a	

修正済み問題

- ☐ デフォルトの日付がゼロ (0) 件のレコードを返す場合、WebFOCUS DESIGNER の WHERE 句が破損します。(02118737)
- ☐ InfoAssist ドキュメントに既存のレポートを追加すると、「Error opening existing report: cannot load during creation of metadata if cmdInfo == null.」というエラーメッセージが表示されます。(02092083)
- ☐ App Studio でガイド付き adhoc アプリケーションを実行すると、表示に失敗します。(02099435)

- ❑ App Studio で、複数コントロールでキャッシュを有効にするために使用されるプロシジャが複数回呼び出されます。(02122288)
- ❑ App Studio で、保存済みパラメータセットのロード後に、ロードされた値に保存した日付と異なる日付が表示されます。(02122347)
- ❑ V5 ポータルへのカスタムようこそページをロードバランサーから表示すると、HTTP 404 エラーが発生します。(02130180)
- ❑ 以前のバージョンの InfoAssist で作成された、JOIN、DEFINE、および HOLD を含むプロシジャを現在のバージョンで開くと、「フィールドが見つかりません」というエラーがユーザに返されます。(02085597、02084981)
- ❑ 日本語システム上の Data Migrator でフローを実行すると、予期しない JSON EOF エラーメッセージが表示される場合があります。これは、日本語の DBCS コードページによるエラーテキストの不適切な処理が原因です。(02109519)
- ❑ ロードバランサーを使用して WebFOCUS にログインすると、HTTP 404 エラーが発生することがあります。これは、[リダイレクト /ibi_apps 先] がカスタムようこそページ (ポータル) の場合に発生します。(02130180、02131257)
- ❑ REST アダプタで連鎖認証を使用する場合、再接続できません。(02052582)
- ❑ WHERE 句に DB_FILE ステートメントを含むプロシジャで、このプロシジャに SET XRETRIEVAL=OFF コマンドも含まれる場合にエラーメッセージが生成されることがあります。(02034698)
- ❑ グローバル名が複数のフィルタコントロールに割り当てられている場合、日付選択ウィンドウから日付を選択すると、「Uncaught TypeError」が表示されます。(02102606、02144021)
- ❑ ブックマークのフィルタ設定に割り当てた代替値が、それらの設定に割り当て済みのデフォルト値によって上書きされます。(02134553)
- ❑ ユーザは、Data Migrator (WebFOCUS) Server の zOS/HFS 展開から、「FOC32583 ZIIP USAGE SUSPENDED TILL NEXT CMD DUE TO EXCESSIVE OVERHEAD」エラーメッセージを頻繁に受信します。(02090041)
- ❑ z/IIP が有効な場合、ユーザは z/OS で散発的に高い CPU 使用率を経験します。(02121572、02110431)
- ❑ PostgreSQL テーブルの JOIN および DB_INFILE で負荷テストを実行すると、エージェントクラッシュが発生します。(02058267)

- ❑ Y 軸ラベルがブラウザサイズの変更に反応しません。(02125299)
- ❑ ReportCaster の配信時に、「レポートを保存できません。保存先 - ReportLibrary: "java.lang.NullPointerException"」というエラーがユーザに返されます。(02062943)
- ❑ App Studio で、HTML キャンバスページのロジックが期待どおりに機能せず、これらで実行するアプリケーションでエラーメッセージが生成されます。(02141123)
- ❑ SUBSTRING 関数が、コードページ UTF-8 を使用したソース文字列から 8189 バイトのみ抽出します。(02125914)
- ❑ パック 10 進数フィールドで FPRINT 関数を使用すると、小数点以下の桁数が正しくなりません。(02126139)
- ❑ SET EXCELSERVURL=LOCAL コマンドを含むプロシジャからの XLSX レポート出力で、改行文字が保持されません。(02121129、02096308)
- ❑ [レガシー機能を有効にする] が無効の場合、WebFOCUS DESIGNER レポートに [編集] オプションが表示されません。(02135973)
- ❑ マルチドリルダウンを使用する場合、番号記号またはハッシュタグ (#) がエンコードされません。(02134377)
- ❑ InfoAssist の複合レポートを開く際に時間がかかります。(02112934)
- ❑ レポートに多数のカラムが含まれる場合、レポート出力キャッシュが削除されます。(02122061)
- ❑ ACROSS フィールドのフォーマットが AnV に設定されている場合、ACROSS-TOTAL 値の配置が正しくなりません。(02118680、02113151)
- ❑ WebFOCUS Reporting Server をバージョン 8.1 SP05M からマイグレート後、Netezza ソースデータベースへの汎用 ODBC 接続を使用するクラスタマスターファイルは、FOC1400、FOC1500、FOC1406 エラーメッセージを返します。(02139615)
- ❑ FOCUS の 64 ビットバージョンでは、未認可 FOCUSNA モジュールをリンクする JCL が機能しません。(02074776)
- ❑ コードページが UTF-8 の場合、REPLACE 関数は値を表示しません。(02117249)
- ❑ MORE と DB_EXPR の組み合わせを使用すると、「(FOC32605) SQL に特化する構文の式は最適化できません」というエラーメッセージが返されます。(02134484)
- ❑ P17.x フォーマットの一時項目 (COMPUTE) は、LAST コマンドおよび ACROSS ステートメントを含むリクエストで使用された場合、データを表示できません。(02133011)

- ❑ Data Migrator の [ログと統計] オプション使用時に、ユーザは統計ログの複数タブを開くことができません。(02112012)
- ❑ Data Migrator デスクトップインターフェースのファイルの検索で、ファイルリストが返されません。(02112031)
- ❑ 取得されるデータが 50 件のレコードに制限されるため、ユーザによるデータプロファイル時のデータ異常値の検出が困難です。(02112314)
- ❑ Oracle テーブルに対する TABLE リクエストに SUM、COMPUTE、LAST、ACROSS コマンドの組み合わせが含まれている場合、WebFOCUS Server エージェントがクラッシュします。(02076590)
- ❑ Oracle 環境のプロファイルで、JOIN が SET FOCTRANSFORM=NESTED_CLUSTERS/ON コマンドとともに使用された場合、ユーザに FOC890 エラーが返されます。(02036675)
- ❑ Analytic Document の使用時に、グラフをレポートに変換してから再びグラフに戻した場合、キャンバスに正しく表示されません。(02030180)
- ❑ ユーザ ID が大文字の場合、ディファードリクエストは送信されません。(02029575、02128295)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の Analytic Document でフィールドを選択し、そのフィールドで DISTINCT を使用してグラフを作成すると、件数が正しくなりません。(02138687)
- ❑ TABPAGENO が存在する場合、LAST コマンドを使用した自己参照 COMPUTE ステートメントが正しくなりません。(02116693)
- ❑ NLS 使用時にセグメント長を増やし、このセグメントを含むレポートを開いた場合、HOLD SEGMENT 名がコードと一致しなくなるため、ユーザは「フィールドが見つかりません」エラーを受信します。(02088727、02111230)
- ❑ マルチバイト文字列を使用している場合、現在の値を InfoAssist グラフに保存することができません。(02104512)
- ❑ WebFOCUS をアップグレード後、InfoAssist で foccache ファイルからのデータを使用するレポートの JOIN が使用できなくなります。(02131608)
- ❑ WebFOCUS をアップグレード後、ポータルページが完全にロードされません。(02146538)
- ❑ フォルダ名に日本語の文字を使用している場合、WebFOCUS DESIGNER およびアップロードツールが起動しません。(02118053、02147711)
- ❑ 値が 100 個を超える ESRI コロプレスチャートのロードが完了しません。(02141412、02148863)

- ❑ 一部のデータがミッシングの場合、ユーザはデータインサイトを実行することができません。(02129774)
- ❑ ユーザは、フィールドがブランクになる可能性がある定義済みフィルタを使用して、ビジュアライゼーションを作成できません。(02030703)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER のオートプロンプトページを使用すると、複数選択リストに [すべて] メニューオプションが表示されません。(02115235)
- ❑ WebFOCUS をアップグレード後、InfoAssist ドキュメントコンポーザで、NOPRINT として識別されるフィールドがレポートに表示されます。(02131611)
- ❑ サーバログに表示される新しいメッセージは混乱を引き起こすため、価値がない場合は削除する必要があります。(02076616、02090912、02094095)
- ❑ getdetails REST 関数がパラメータを返すことができません。(02116296)
- ❑ フィルタでドロップダウンを使用した場合とリストボックスを使用した場合で、ダッシュボードをロードする際のパフォーマンスに大きな違いが発生します。(02142379)
- ❑ レポート出力に、NOPRINT オプションを指定した数値 BY フィールドが表示されます。(02147498)
- ❑ マルチレイヤマップを作成し、マップリクエストパラメータの順序を変更した場合、Uncaught Type Error メッセージが生成される可能性があります。(02144750)
- ❑ ブックマークの作成時に HYYMDS フィールドが使用されると、FOC177 エラーメッセージが表示されます。(02143910)
- ❑ アップグレード後に、日付をフィルタとして使用する WebFOCUS DESIGNER の変換ページを開くと、ポータル上の残りの変換済みページはエラーを受信し、表示されません。(02143644)
- ❑ OData アダプタを使用する場合、BY 句とともに使用される PRINT DST. コマンドでエラーが発生します。(02144161)
- ❑ 選択した言語として中国語または韓国語を使用してコラボレーションポータルを実行すると、ポータルが開かず、ロードされ続けます。(02134405、02136359)
- ❑ App Studio で、同一トリガタイプと同一トリガ ID を使用した複数のトリガがタスクとアニメーションに存在する場合、一連のイベントの最初のタスクのみが実行されます。(02127255)
- ❑ App Studio で、ファイル名の日本語が疑問符 (?) で表示されます。(02119522)

- ❑ [実行時に選択] フォーマットに設定しても、WebFOCUS DESIGNER で別のフォーマットに変更されません。(02117199、02130421)

アップグレードに関する注意事項

- ❑ Hyperstage を含まない WebFOCUS 統合インストールでは、Reporting Server ブラウザインターフェースで [データの取得] をクリックすると、2 つのアダプタのみが表示されます。デフォルトのアダプタはすべて引き続き使用できますが、デフォルトのリストからは除外されています。

既知の問題

- ❑ Power Linux オペレーティングシステムで製品のインストールを完了した後、run_dsml_services.sh スクリプトで問題が発生した場合、次の例に示すように、次の 2 つの変数をエクスポートし、スクリプトを再度実行することができます。

```
export OMP_NUM_THREADS=1
export USE_SIMPLE_THREADED_LEVEL3=1
```

- ❑ Hyperstage を含まない WebFOCUS 統合インストールを使用する場合、Retail_samples データは自動的にロードされません。その結果、インストール後に Retail_samples プロシージャファイルを実行すると、メッセージが表示されます。インストール後に WebFOCUS Hub の [アプリケーション] エリアで [Retail デモ] チュートリアルを実行することにより、Retail_samples データを再作成できます。

3

バージョン 9.0.3 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、[TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイト](#)にアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス

- ☐ [バージョンおよびビルド情報](#)
- ☐ [新機能](#)
- ☐ [修正済み問題](#)
- ☐ [アップグレードに関する注意事項](#)
- ☐ [既知の問題](#)

バージョンおよびビルド情報

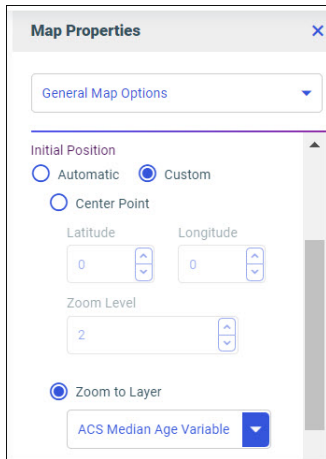
リリース日	ビルド番号	Reporting Server
2022 年 8 月	wf081722a Gen 8 wi081722a as081122a	903 Gen 2363

新機能

ここでは、上記バージョンの新機能について説明します。

ロード時のマルチレイヤマップのレイヤヘズーム機能

マップの初期ロード時に、WebFOCUS の [マップのプロパティ] パネルで、固定位置またはすべてのポイントではなく、特定のレイヤへのズームをマルチレイヤマップに設定できるようになりました。



これにより、マップ上の最重要情報へのフォーカスが可能になります。

修正済み問題

- ❑ ユーザは、WebFOCUS DESIGNER で、連鎖階層が存在しないためにデータソースまたは FOCEXEC へのバインディングを変更できません。(02108553)
- ❑ App Studio のタブコントロールで、複数ページの 1 ページ目のデータのみが表示されず。(02109966)
- ❑ フィルタフィールド名が、ポータルページで作成したブックマークを選択後に元の名前に戻されます。(02105870)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER のカレンダーコントロールで連鎖が機能しません。(02108192)
- ❑ PostgreSQL アダプタの使用時に、特殊文字を含むパスワードを使用するとバルクロード処理でエラーが発生します。(02079009)
- ❑ SET TEMPERASE = ON コマンドを使用しても、JSCOM3 フォルダがクリアされません。(02095554)
- ❑ InfoAssist で、フィルタまたはドリルダウン後にデータを再度表示すると、ビジュアライゼーションに元のデータ行が表示されます。(02030587、02063124)

- ❑ [アプリケーションコンテキストの設定] への変更が、管理コンソールの他のエリアでユーザが変更を行った後、デフォルト値に戻されます。(02084743)
- ❑ [出力先変更設定] を変更すると、mime.wfs ファイルの値が破損されます。(02109626)
- ❑ EMBED 構文を使用した LINEMAP コマンドでは、各ラインの 1 つ目のセグメントのみが描画されます。(02092469)
- ❑ Chrome または Edge (Selenium) ブラウザで実行して foccache で生成された HOLD ファイルは、App Studio で取得できません。(02052889、02108050)
- ❑ App Studio で、Chrome または Edge (Selenium) を使用してレポートを実行し、90 秒間待機すると、次回レポートを実行した際にログインページに戻されます。ここでログインすると、「アクセスは拒否されました」という 403 エラーメッセージが表示されます。(02066073)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、フィルタが静的の場合ブックマークが保持されません。(02101524)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、上位コントロール値を変更すると、連鎖フィルタに値が入力されません。(02113852)
- ❑ InfoAssist または WebFOCUS DESIGNER のフィルタで、特殊文字が表示されません。(02115258)
- ❑ PostgreSQL Bulk Loader で、ユーザ名とパスワードを変更すると認証に失敗します。(02079009)
- ❑ Data Migrator での Change Data Capture (CDC) は、Oracle 18c を使用した場合機能しますが、Oracle 19c を使用すると FOC エラーメッセージが返されます。(02113161)
- ❑ セグメント長を増やしてレポートを開くと、HOLD SEGMENT 名がコードと一致しないため、「フィールドが見つかりません」というエラーがユーザに返されます。(02111230、02092660)
- ❑ IbComposer_populateDynamicCtrl JavaScript 関数を使用すると、HTML Save Selection が機能しません。(02109658)
- ❑ App Studio のバージョン 8.2.06.28 で作成した HTML プロシジャがロードされない可能性があります。また、ロードされる場合も複数回の試行後にのみロードされます。(02109658)
- ❑ App Studio で、テキストエリアに複数値を含む Save Selection を使用すると、レポートではなくオートプロンプトが生成されます。(02111916)

- ❑ App Studio で、最新の Selenium ドライバを使用する Chrome の新しいタブでレポートを複数回実行すると 403 認証エラーが発生する場合があります。(02032677)
- ❑ App Studio で [リクエストとデータソース] パネルを使用し、プロシジャファイルが約 800 行を超え、このプロシジャの解析に十分なメモリがパーサにない場合、App Studio がクラッシュし、AppStudioFault.log ファイルが生成されません。(02109002)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、BY TOTAL を使用すると TOTAL 値ソートフィールドにドリルダウンが生成され、「コールで無効なセッションが使用されています」というエラーメッセージが表示されます。(02100581)
- ❑ App Studio では、ダブルリストのページ/検索コントロールの範囲値が、編集時にプロパティパネルで開かれた場合と、パネルで一度も開かれなかった場合とで異なります。(02114284、02114573)
- ❑ HLISECUR プログラムは、SUSI イグジットを使用する 64 ビット z/OS 環境では使用できません。(02107554)
- ❑ App Studio で、AS 句を含む SUM set の選択後に [ミッシングの表示 (ALL)] オプションを選択すると、プロシジャコードの「AS」の後に改行が挿入され、この改行によりエラーが発生するためレポートを開くことができなくなります。(02118596、02108938)
- ❑ TIBCO WebFOCUS では、WebFOCUS ポータルで F8 キーを押すと、ユーザにリソースツリーが表示されます。(02103852)
- ❑ セッションタイムアウトの警告メッセージが期限切れにならず、ポータルへの再度ログインをユーザに求める代わりに表示され続けます。(02084711)
- ❑ InfoAssist で、ドリルダウンパラメータを含むプロシジャの編集時に、QUOTESTRING を余分に追加すると FOC002 エラーメッセージが返されます。(02119484)
- ❑ App Studio で HTML ファイルを保存するたびに、埋め込み JavaScript にブランク行が追加されます。(02118314)
- ❑ 日本語のマスターファイルからビジュアライゼーションを作成する場合、フィルタパネルのフィールド値が疑問符 (?) で表示されます。(02119228)
- ❑ setTextFormatPreset(getY1Label(),7); 構文を使用した場合、ドイツ語の短縮名が Y 軸に正しく表示されません。(02030797)
- ❑ KPI テーブルを PDF にエクスポートすると、カスタムグラフタイプがブランクになります。(02052750、02116387)

- ❑ 3 個以上の連鎖フィルタと 1 個の静的フィルタを含む WebFOCUS DESIGNER ページでは、初期読み込み時の遅延読み込みが機能しません。(02118802)
- ❑ Solr がエラーメッセージを返すと、グローバル検索の結果がブランクになります。(02114387)
- ❑ 単一の親から複数のオートプロンプトの連鎖が生成されます。(02096540)
- ❑ &WFFMT を使用して HTML から Excel 出力を行うと、文字化けが発生します。(02109712、02113073)
- ❑ SharePoint アダプタでは、シノニム作成時にリストが取得できません。(02116282)
- ❑ WebFOCUS の以前のバージョンからのアップグレード後、グラフでのデータラベルの回転が機能しません。(02114661)
- ❑ App Studio で、オンデマンド設定のために HTML のロード画面が消えません。(02121651)
- ❑ CLM (Cluster Load Management) で 3 つの Reporting Server を設定した場合、1 つ目の Reporting Server のチェックをオフにすると 503 エラーメッセージが返されます。(02114473)
- ❑ App Studio で長いレポートを実行すると、Selenium のタイムアウトエラーが発生します。(02116038)
- ❑ InfoAssist でのマスターファイルの選択時に、2 バイト文字セット (DBCS) のアプリケーションディレクトリを使用すると、baseapp フォルダが削除されます。(02077509)
- ❑ SET CDN = ON コマンドを使用すると、ブランクのレポート出力が生成されます。(02097684)
- ❑ XFOCUS ファイルと LOCATIONS の連結を含む USE ステートメントで、FOC1850 エラーメッセージが返されます。(02096209、02122176)
- ❑ フィルタでは、部分的な DATE は MDYY[m|q|y] フォーマットと互換性がありません。(02031230)
- ❑ OUTLIER 関数で、正しい結果が返されません。(02085282)
- ❑ ソースに 50 件以上のレコードが含まれる場合、データ管理プロセスで構造の正しくない XML ファイルが作成されます。(02116522)
- ❑ SharePoint アダプタの使用時に、このアダプタ接続を使用してリストのメタデータを作成すると、リストが返されません。(02116282)

- ❑ Drill Anywhere 機能で、フィールドを下方向へスクロールできません。(02104562)
- ❑ InfoAssist の Web ビューアでフィールド値を検索すると、実行時にブランクの出力が表示されます。(02123934)
- ❑ ReportCaster でスケジュール済みジョブが実行されず、Java の Null pointer exception が発生します。(02123439)
- ❑ WebFOCUS バージョン 9.0.2 には、web.xml ファイルのモジュール名として、「webfocus 9.0」ではなく「webfocus 8.2」が含まれます。(02125674)
- ❑ WebFOCUS が日本語を使用するよう構成されている場合、セキュリティセンターで、[ユーザ] リスト、[グループ] リスト、[ロール] リストの項目を選択またはクリックすることができません。(02118605)
- ❑ InfoAssist でバルクロード設定が ON の場合、Hyperstage フォーマットで HOLD ファイルが作成できません。(02028163、02094651)
- ❑ Reporting Server のエージェントクラッシュで、原因を説明する詳細なエラーメッセージが表示されるようになりました。(02029533)
- ❑ App Studio のインストールウィザードの [ソフトウェア情報] ダイアログボックスに表示される Internet Explorer の最低バージョン要件の修正リクエスト。(02113771)
- ❑ [設定] パネルのデータの表示で、VALUE FROM フィールドのフォーマットが DISPLAY FROM フィールドのフォーマットと異なる場合に、コントロールに NULL 値が表示されません。(02109134)
- ❑ ACROSSCOLUMN にドリルダウンを追加すると、WEBVIEWER が ON か OFF によってスタイル設定が変更されます。(02032767)
- ❑ OData 接続で EXT AGGR オプションを使用し、同時に ALERTSTATUS フィールドをサポートするレポートオブジェクトが Alerts_custom_business_view DESIGNER グラフのソースとして使用される場合、動的フィルタに ALERTSTATUS フィールドを選択してもレコードが返されません。(02107174)
- ❑ App Studio で、2 つのコントロールを連鎖すると、グローバル名を使用した場合に、1 つ目のタブで選択したパラメータが 2 つ目のタブに反映されません。(02105603)
- ❑ ドリルダウンレポートのリンクをクリックすると、NULL 値が、ピリオド (.) ではなく _FOC_MISSING を返します。(02115676)
- ❑ ACROSS 句および RPCT 演算接頭語を使用した複数動詞リクエストでは、ACROSS フィールドに無効なデータが生成されます。(02030262)

- ❑ 管理コンソールでログファイルのデバッグレベルの設定を更新できません。(02090812)
- ❑ SQL エディタの変更がビジュアライゼーションで保存されません。(02110810)
- ❑ 特定のタイプのデータファイルで DATASET コマンドを使用すると、FOC1006 エラーがユーザに返されます。(02102831)
- ❑ ON TABLE SET をリセットすると、HDAY が正常に機能しなくなります。(02087542、02106273)
- ❑ 複数の WebFOCUS Reporting Server が、コード内で同一サーバ名を使用する同一の Resource Analyzer リポジトリアカウントを指す場合、アーカイブが失敗しエラーが返されます。(02097790)
- ❑ セキュリティセンターで、サブグループのプロファイル (prf ファイル) が適用されません。(02106961)
- ❑ STRREP 関数で FOC_ コマンドを使用すると、WebFOCUS Client から Run As Deferred Report が発行された場合に、WebFOCUS Reporting Server の SCHEDULER サービスがクラッシュします。(02103790)
- ❑ セキュリティセンターで複数ユーザを含むグループを選択した場合、画面下部の最新のユーザが日本語で正しく表示されません。(02095576)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER のページエディタで、カスタム変数フィルタコントロールのグローバル名が正しく機能しません。(02119731)
- ❑ InfoAssist でレポートを開くと、CPU 使用率が上昇し、ブラウザがハングします。(02113472)
- ❑ Kerberos セキュリティが設定された Linux WebFOCUS Reporting Server への接続で、TCP/HTTP リスナがクラッシュします。(02118533)
- ❑ Google BigQuery アダプタを介して発行された各プロシジャクエリは、重複したクエリを自動的に生成します。(02133708)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER のフィルタボックスで、ドイツ語のウムラウト文字が正しく表示されません。(02116497)
- ❑ App Studio で、HTML キャンバスページのロジックが期待どおりに機能せず、これらで実行するアプリケーションでエラーメッセージが生成されます。(02131845、02141123)
- ❑ Web Query バージョン 9.0.3 では、webfocus-applications-903.jar ファイルに適用された hotfix により、addUsers.sh ファイルおよび rmvwqsrs.sh ファイルの修正が削除されます。(02142644)

- ❑ InfoAssist でフィルタを設定する日付の開始日と終了日のオプションを使用する場合、ユーザは 3 月 28 日から 3 月 31 日までの日付を選択できません。(02109772)
- ❑ フィルタツールバーで使用する列に Odata ソースを使用すると、FOC45641 エラーが返されます。(02144161)

アップグレードに関する注意事項

- ❑ マップの作成では、ESRI による [アメリカ合衆国人口推移 1990-2000] レイヤのサポートが終了しました。このレイヤは、[アメリカ合衆国人口増加 2022-2027] レイヤで置換されます。

既知の問題

- ❑ WebFOCUS DESIGNER または InfoAssist のユーザが HTML5 グラフ拡張機能を完全利用するには、次の手順を実行する必要があります。
 1. 管理コンソールの [構成] タブにある [HTML5 グラフ拡張機能] ページから、グラフ拡張機能の追加、削除、更新を行った後は、ブラウザキャッシュをクリアします。
 2. [HTML5 グラフ拡張機能] ページから開く [拡張機能のアップロードとインストール] ページに新しいグラフ拡張機能をインストールした後は、Tomcat サービスを停止して再起動します。

注意：Tomcat サービスを停止して再起動する方法は複数あります。
- ❑ Windows オペレーティングシステムで WebFOCUS を実行するユーザは、WebFOCUS Application Server を実行するマシンに移動します。[タスクマネージャー]を開き、[サービス] タブを選択します。
 - ❑ 統合インストールを使用している場合は、[WFIAppSvc] (WebFOCUS WFI Application Server) サービスを停止して再起動します。
 - ❑ Windows インストールを使用している場合は、[Tomcat9WF] サービスを停止して再起動します。
- ❑ Linux オペレーティングシステムで WebFOCUS を実行するユーザは、WebFOCUS Application Server を実行するマシンに移動します。
 - ❑ Tomcat サービスを停止するには、コマンドラインに次のコマンドを入力します。

```
systemctl stop identity_tomcat.service
```
 - ❑ Tomcat サービスを再起動するには、Tomcat サービスの停止後に次のコマンドを入力します。

```
systemctl restart identity_tomcat.service
```

- ❑ PDF、PPTX、XLSX 出力フォーマットで生成されたマップでは、ベクターベースマップが描画されません。

4

バージョン 9.0.2 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、[TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイト](#)にアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス

- ☐ [バージョンおよびビルド情報](#)
- ☐ [新機能](#)
- ☐ [修正済み問題](#)
- ☐ [アップグレードに関する注意事項](#)
- ☐ [ESRI ラスタベースマップの廃止](#)
- ☐ [既知の問題](#)

バージョンおよびビルド情報

リリース日	ビルド番号	Reporting Server
2022 年 6 月	wf060322a Gen 7 wi060322a as060222b	902 Gen 2359

新機能

ここでは、上記バージョンの新機能について説明します。

検索インデックス機能

検索インデックス機能は、WebFOCUS Reporting Server ブラウザインターフェースから使用できます。この機能では、WebFOCUS Client と Reporting Server の両方のリポジトリで単一の統合された検索機能が利用できます。結果の単一インデックスは、既存のインデックス構造を利用するユーザの権限によって制御されます。コンテンツとデータのインデックス化が完了すると、WebFOCUS UI または HOLD ファイル処理を使用して更新されるリポジトリコンテンツおよびデータのディレクトリへのすべての後続の変更が、WebFOCUS によって自動的にインデックス化されます。

インデックスオプション

インデックスには主に 2 つのオプションがあります。

- ☐ すべてのアプリケーションのインデックス
- ☐ パス内のすべてのアプリケーションのインデックス

フィルタとして次のいずれかのオプションを選択できます。また、指定済みのマッピングディレクトリまたは指定されていなくすべてのマッピングディレクトリ (ALL) のオプションも選択できます。

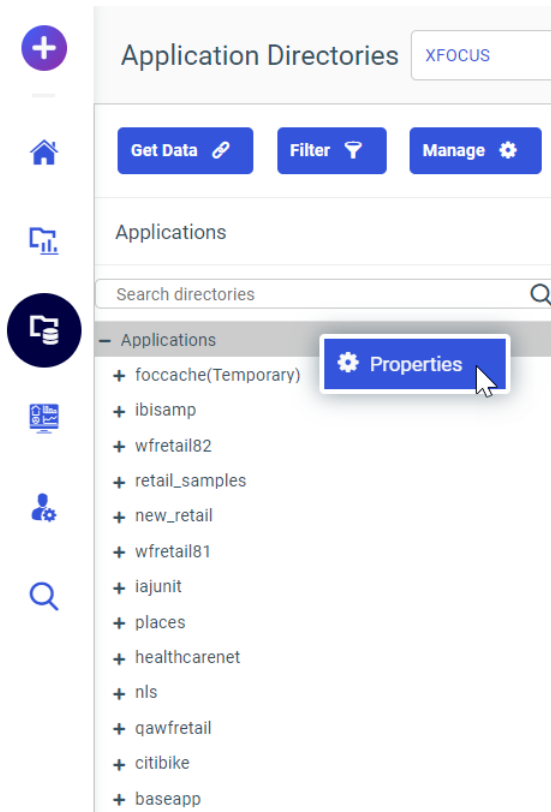
アプリケーションディレクトリエリアで、次のことを実行します。

- ☐ アプリケーションノードで、Reporting Server の項目のすべてまたは一部に対する検索インデックスオプションを選択することができます。
- ☐ マッピング済みアプリケーションディレクトリの [プロパティ] ダイアログボックスで、チェックボックスを使用して検索インデックスにマッピングディレクトリを含めることができます。検索インデックスオプションに加えて、このオプションを選択できます。
- ☐ アプリケーションディレクトリノードから、インデックスの作成、インデックスの更新、インデックスの削除が行えます。このオプションは、マッピング済みのアプリケーションディレクトリでのみ使用できます。

手順

アプリケーションノードの検索インデックスオプションを選択するには

1. 下図のように、アプリケーションディレクトリエリアで、[アプリケーション] ノードを右クリックし、[プロパティ] を選択します。



下図のように、[検索インデックスオプション] ダイアログボックスが開き、ファイルと場所のオプションが表示されます。

Search Index Options

Files

☐ Files from all application directories

☒ Files only from application directories in defined application path

Location ?

☒ All regular directories & marked mapped directories

☐ All mapped directories

Cancel **Save**

2. 検索インデックスオプションを選択します。

アプリケーションディレクトリのファイルでは、次の検索インデックスオプションが選択できます。

- ❑ **すべてのアプリケーションディレクトリのファイル** WebFOCUS Reporting Server のすべてのファイルをインデックス化します。
- ❑ **定義済みアプリケーションパスのアプリケーションディレクトリのみのファイル** 定義済みアプリケーションパスのアプリケーションディレクトリに表示されるファイルのみインデックス化します。

アプリケーションディレクトリの場所では、次の検索インデックスオプションが選択できます。

- ❑ **すべての標準ディレクトリと指定済みのマッピングディレクトリ** APPROOT 下のアプリケーションディレクトリおよび [検索インデックスに含める] オプションが有効なアプリケーションディレクトリをインデックス化します。
- ❑ **すべてのマッピングディレクトリ** [検索インデックスに含める] オプションが有効かどうかにかかわらず、すべてのマッピングディレクトリをインデックス化します。

3. [保存] をクリックします。

これで使用する Reporting Server のデータがインデックス化されました。

手順

プロパティダイアログボックスを使用してマッピングディレクトリを検索インデックスに追加するには

1. [アプリケーションディレクトリ] エリアの [アプリケーション] ノードで、アプリケーションディレクトリを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

下図のように、[プロパティ] ダイアログボックスが開き、[検索インデックスに含める] チェックボックスが表示されます。

Application Type

Application Mapping

Physical Location

\\tibco.com\foc\data\ms2014_retail

Map to

New application (directory will be created)

Mapping defined in profile

EDASPROF

APPPATH defined in profile

EDASPROF

Number of files

13

☒ Include in search index

Cancel Save

2. [検索インデックスに含める] のチェックをオンにします。

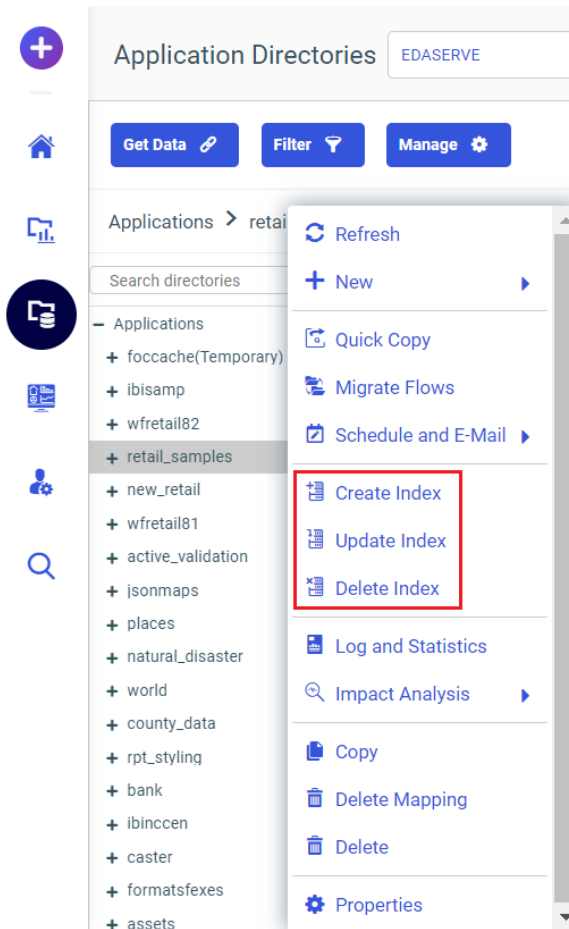
手順

マッピング済みアプリケーションディレクトリのインデックスを作成、更新、削除するには

1. [アプリケーションディレクトリ] エリアの [アプリケーション] ノード下で、アプリケーションディレクトリを右クリックします。

下図のように、コンテキストメニューに [インデックスの作成]、[インデックスの更新]、[インデックスの削除] の各オプションが表示されます。

注意：これらのオプションは、マッピング済みアプリケーションディレクトリでのみ表示されます。



2. 検索インデックスオプションを選択します。

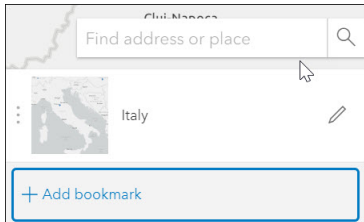
次の検索インデックスオプションがあります。

- ☐ **インデックスの作成** 選択したマッピング済みアプリケーションディレクトリでインデックスを作成できます。
- ☐ **インデックスの更新** 選択したマッピング済みアプリケーションで既存のインデックスを更新できます。
- ☐ **インデックスの削除** 選択したマッピング済みアプリケーションで既存のインデックスを削除できます。

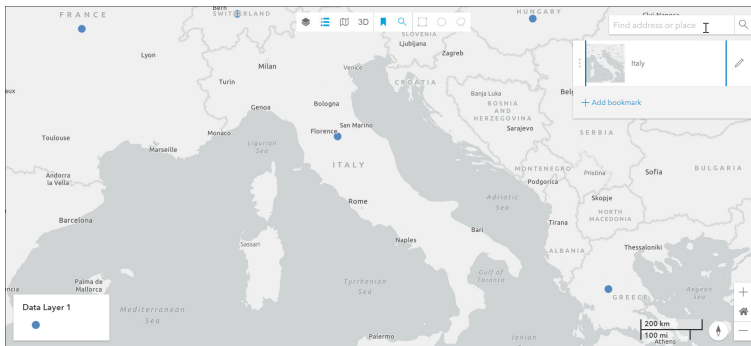
マルチレイヤマップへのブックマークの追加

マルチレイヤマップまたはマップレイヤのプロパティを変更する際に、ツールバーからブックマークを追加し、カスタマイズした変更を自動的に保存できるようになりました。

たとえば、世界地図の特定地域にズームインし、この視点をブックマークウィジェット内にブックマークとして追加することができます。

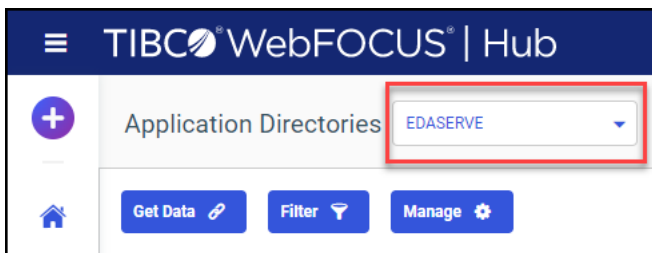


このブックマークをクリックすると、マップのカスタマイズした視点に戻ることができます。

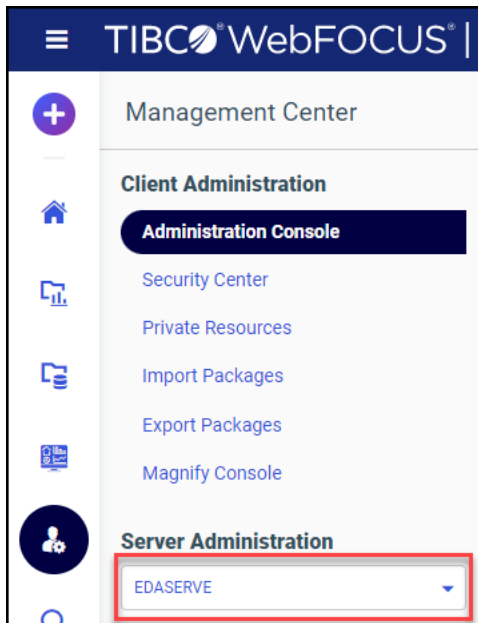


WebFOCUS Hub から複数のサーバコンテンツへのアクセス改善

新しい複数サーバリストには、TIBCO WebFOCUS のインストールで構成された TIBCO WebFOCUS Reporting Server 接続ノードの名前が表示されます。このリストは、WebFOCUS Hub の 2 か所に表示されます。1 つは、[アプリケーションディレクトリ] エリアのアプリケーションディレクトリツリー上部に表示されます。下図はその例です。



もう 1 つは、[管理センター] エリアメニューの [サーバ管理] セクションに表示されます。下図はその例です。



複数サーバリストには、TIBCO WebFOCUS のインストールで構成された Reporting Server 接続ノードの名前が表示されます。これらのノードは、WebFOCUS 管理コンソールの [構成] タブに表示されます。複数サーバリストの項目はこの構成に基づくため、このリストは、Reporting Server 接続ノードの作成や削除によって動的に変更されます。

このリストから選択する値によって、WebFOCUS Hub でのアプリケーションディレクトリおよび他のサーバコンテンツの表示が、選択した Reporting Server 接続に割り当てられたものに制限されます。組織で複数のサーバを保持する場合、リソースを確認したり、別のサーバに割り当てられた構成設定を確認するために Web コンソールを起動してサーバを選択する必要がなくなりました。今後は、このリストを使用して選択できます。

Reporting Server ブラウザインターフェースからの FOCUS として実行機能

既存の FOCUS MSO (Multi-Session Option) ユーザまたは、Web ベース環境で旧バージョンのアプリケーションを実行するユーザがアップグレードパスを指定する最初の手順として、Reporting Server ブラウザインターフェースからインタラクティブな FOCUS プロシジャ (FOCEXECs) の実行ができるようになりました。この機能は、MODIFY CTFORM および MODIFY PROMPT、MODIFY DEBUGGER、すべての TABLE、TABLEF、GRAPH 出力およびダイアログマネージャ -CRTFORM および -PROMPT を含むすべての FOCUS コマンドでサポートされます。

注意：コンパイルされた MODIFY プロシジャはサポートされません。元の FOCEXEC が必要です。FOCCOMP (.fcm) ファイルは使用できません。

Talk Technologies (TableTalk および ModifyTalk)、Terminal Operator Environment (TOE)、および FOCUS Main Menu (FMMAIN) などの FOCUS ツールは、この環境でサポートされます。

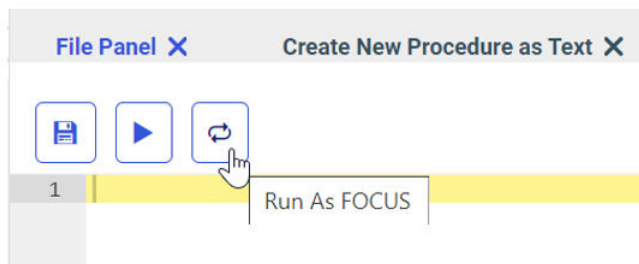
出力は、2 つの左右パネルに表示されます (フルスクリーン出力およびラインモード出力)。これは、MODIFY、MODIFY DEBUGGER またはダイアログマネージャに必要なすべてのデバッグに非常に役立ちます。フルスクリーンを終了すると、そのことが表示されます。

プロシジャのインタラクティブ実行

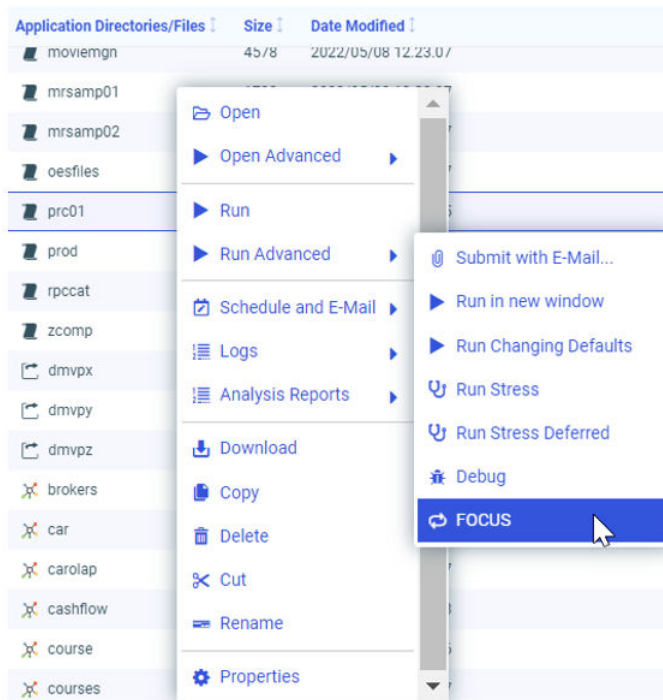
Reporting Server ブラウザインターフェースを使用することで、アプリケーションディレクトリからプロシジャを選択し、インタラクティブな FOCUS 実行を行えます。この場合、次のいずれかの方法を使用します。

- ☐ [FOCUS として実行] ボタンを使用する。
- ☐ [詳細を指定して実行] FOCUS オプションを使用する。

下図は、[FOCUS として実行] ボタンを示しています。



下図は、[詳細を指定して実行] FOCUS オプションを示しています。



修正済み問題

- ☐ 特殊文字が含まれる場合、OData アダプタでフィルタが渡されません。(02094282)
- ☐ AUTOFIT=ON コマンドを使用しても、ページ幅全体を使用するようレポートが拡張されません。(02031316、02063457)
- ☐ WebFOCUS DESIGNER で、モバイルダッシュボード間の切り替え時にユーザによるコンテンツ順序の制御ができません。(02092501)
- ☐ アップグレード後のポータルまたはページの実行時に、ユーザはコンテンツを移動できません。(02092501)
- ☐ ページデザイナーのナビゲーションで、ADA (障害を持つアメリカ人法) コンプライアンスの問題があります。(02097178)
- ☐ カレンダーフィルタでは、初期実行時に正しくない値が表示されます。(02080119)
- ☐ WebFOCUS DESIGNER から PNG フォーマットに境界付きグラフをエクスポートすると、境界線が一部表示されません。(02059568)

- ❑ WebFOCUS ログインページで、大文字のユーザ名が使用できません。(02096134、02098558)
- ❑ App Studio のページ/検索コントロールに表示されるデフォルト範囲が、以前のバージョンと異なります。(02097310)
- ❑ InfoAssist で作成したグラフに `setSeriesType` が適用されると、コンテナで「TypeError: Cannot set property 'riserShape' of null」というエラーが発生します。(02029851、02076422、02064696)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の標準レポートで中間合計のスタイル設定を使用すると、「The Value of this Variables is Invalid!」というエラーが発生します。(02060108)
- ❑ LRU キャッシュでは、スタンドアロンまたはポータルページに含まれている場合、AUTOPROMPT プロシジャからパラメータ値が取得できません。(02099035)
- ❑ セキュリティセンターのグループが正しく継承されず、セキュリティセンターのグループとしてユーザ ID が、WebFOCUS Client から Kerberos セキュリティを使用するよう構成された WebFOCUS Reporting Server に継承されます。(02099485)
- ❑ ALLOW-TOOLS=OFF および ARVERSION=1 を使用すると、コンソールで「ibiChart is not defined」というエラーが発生します。(02057498、02051914、02058123、02069163、02077085、02090599、02097923)
- ❑ グラフを表示する際に、「バンドルされたライブラリのロードに失敗しました: ibx」というエラーがユーザに返されます。(02061668)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER のマスターファイル記述のビジュアライゼーションプロンプト変数で、変数への変更が保持されません。(02030312、02030940、02030512)
- ❑ フィルタに、集約ページの値ではなく ACCEPT=SYNONYM の検索値が表示されます。(02030049)
- ❑ ユーザは、通常実行できないはずのサーバタブへのファイルの保存が試行できます。(02083149)
- ❑ SAP ソースからのシノニム作成時に、デフォルトデータタイプを使用すると、スペースの問題が発生します。(02052465)
- ❑ Galileo 拡張機能を無効にした後にグラフを編集すると、「com.ibi.fdmx.error.FdmInternalException」というエラーが発生します。(02051099)
- ❑ マスターファイルのプロンプト変数が、WebFOCUS DESIGNER のビジュアライゼーションで保持されません。(02030312、02030940、02030512)

- ❑ [データの取得] ボタンが表示されないため、ユーザはデータをアップロードする方法がありません。(02030365)
- ❑ ユーザは、検索結果から項目の場所を開く機能が必要です。(02030410)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の連鎖フィルタと静的フィルタを含むページで、初期読み込み時の遅延読み込みが機能しません。(02100311)
- ❑ アプリケーションキャッシュが、WebFOCUS DESIGNER フィルタで機能しません。(02099035)
- ❑ [OK] ボタンと [キャンセル] ボタンが表示されないため、ユーザは、プライベートリソース管理の [USERS] 下に新規フォルダを作成できません。(02096216)
- ❑ ユーザに WebFOCUS DESIGNER 権限を追加すると、InfoAssist 権限が有効になります。(2091130)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、マスターファイルの変数の入力が無視されます。(02030312、02030940、02030512)
- ❑ App Studio で、ポップアップスタイルのダブルリストコントロールから [すべてリセット] ボタンをクリックすると、ドキュメントレベルのページ/検索コントロールの範囲が無視される問題が修正されました。(02055273)
- ❑ Workbench URL からアクセスした場合、[+Content] ボタンから [データの取得] オプションが使用できません。(02030365)
- ❑ SUB Server の ON TABLE PCHOLD では、日付の USAGE フォーマットが MDYY から YYMD に変更されます。(02069812、02095554)
- ❑ 英語環境では、BLANK エントリは実行時のプロンプトとフィルタパラメータのダイアログで一致していますが、ドイツ語環境では BLANK と LEER の不一致が発生します。(02030600)
- ❑ プロシジャで関数として Python スクリプトを呼び出すと、「(FOC31054) PYTHON processing failed for BASEAPP/PYTHON_EXMPL/ARITHMETIC_EXAMPLE_PY」というエラーが発生します。(02030621)
- ❑ Salesforce アダプタを使用し、SUM を含み、キーを含まないリクエストを発行すると、iWay Data Migrator のエージェントクラッシュが発生します。(02096822)
- ❑ ユーザの WebFOCUS Cloud 環境で、CPU 使用量の増大とメモリに関する警告が発生します。(02080624)

- ❑ バージョン 8.1 SP05 で作成した選択ファイルの保存済み条件が、バージョン 8.2.07.28 および 9.0 で正しく表示されません。(02099219)
- ❑ 一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) で INPUT HTML タグを使用すると、AHTM v2 (ARVERSION=2) では機能しませんが、AHTM v2 (ARVERSION=1) では機能します。(IDA-1292)
- ❑ SET TEMPERASE = ON を使用した場合に、JSCOM3 フォルダがクリアされません。(02095554)
- ❑ ユーザが保存済みパラメータを作成した場合、HTML レポートが実行されません。(02098317)
- ❑ App Studio で、HTML ファイルの複製後に、iframe で表示される代わりに PDF ファイルがダウンロードされる問題が修正されました。(02099010)
- ❑ Resource Analyzer の構成を削除した後、ユーザは WebFOCUS Server を起動することができません。(2102349)
- ❑ 以前のバージョンからマイグレートされたソースとして Salesforce アダプタ (SFDC) を使用する Data Migrator フローで、エラーが発生します。(02073641)
- ❑ Data Migrator で、Salesforce シノニムをクエリするプロシジャの実行時にエージェントクラッシュが発生します。(02096822)
- ❑ 特殊文字を含む場合、OData アダプタでフィルタが渡されません。(02094282)
- ❑ [Create Items] 権限を持たない場合、ユーザは、ReportCaster スケジュールの編集を保存できません。(02100063)
- ❑ WebFOCUS のフィルタおよびページが、モバイルブラウザで表示されません。(02104485)
- ❑ ドリルダウンからのポータルページでハングアップが発生し、砂時計が表示され続けます。(02102297)
- ❑ [共有の設定] オプションで、項目がアルファベット順に表示されません。(02028336)
- ❑ ポータルから実行すると、jQuery のダイアログボックスに [閉じる] アイコンが表示されません。(02094573)
- ❑ Reporting Server のエージェントクラッシュで、原因を説明する詳細なエラーメッセージが表示されるようになりました。(02029533)
- ❑ 新しいホームページ (デフォルト設定) からインポートを実行した場合、RULES を含む変更管理パッケージでルールがインポートされません。(02106230)

- ❑ ページ/検索コントロールの使用時に、ドロップダウンの値が変更されても警告メッセージが表示されません。(02106752)
- ❑ ビルトインテンプレートを無効にしようとすると、内部例外処理 (IBFSService.putProperties) エラーが発生します。(02096944)
- ❑ ガイド付き adhoc ポータルアプリケーションの実行で、レポートが表示されません。(02099435)
- ❑ HTMLFORM プロシジャで、Ajax コールを使用したプロシジャで複数のグラフを実行した場合、すべてのグラフが表示されるとは限りません。(02089110)
- ❑ Active Report の列が固定されている場合 (FREEZE-COLUMN)、条件付きスタイルルールの設定が一部失われます。(02028383)
- ❑ WebFOCUS REST アダプタの構成後に、マスターファイル記述の解析エラーがユーザに返されます。(02080626)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER でのグラフ作成で、ツールヒントの一時項目 (COMPUTE) で使用したメジャーによって、プレビュー時にエラーが発生します。(02090323)
- ❑ ACROSS を使用し、レポートタイプが Active Report に変更された場合、条件付きスタイル設定でエラーが発生します。(02029331)
- ❑ Flat File で CNT.DST.fieldname リクエストを使用すると、エージェントクラッシュが発生します。(02094399)
- ❑ ETL ジョブでは、Tandem Driver で SQLJDBC HPE NonStop ソースを使用し、ターゲットが Hyperstage の場合に、「(FOC1500) The message id: invalid_holdability」というエラーが発生します。(02093207)
- ❑ Reporting Server のシノニムエディタでシノニムを開くと、ファイルシステムから APPS フォルダが削除されます。(02100509、02106942)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、グリッドパネルのフィルタを必須にして実行した場合、フィルタ値が選択されていなくてもグラフまたはレポートがロードされます。(02097587)
- ❑ WebFOCUS へのログイン時に、ユーザ名の認証で小文字しか使用できません。(02086904)
- ❑ ページのロード時に、連鎖フィルタが正しく初期化しません。(02102518)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER テンプレートで、ドリルダウンに一時項目 (DEFINE) からの変数が表示されません。(02095709)

- ❑ ビジュアライゼーションでのページの作成で、数千のフィールドを含むコンボフィルタを使用し、選択コントロールが有効の場合、1 つを残してすべてのフィールドを選択すると、「変数値の長さが最大値を超えています」というエラーが発生します。(02101606)
- ❑ マスターファイルに ACCEPT 属性を含む WebFOCUS DESIGNER ページへのドリルダウンで、フィルタに選択値ではなく最初の利用可能な値が表示されます。(02064612)
- ❑ HLISECUR プログラムは、SUSI イグジットを使用する 64 ビット z/OS 環境では使用できません。(02107554)
- ❑ SUM フィールドで [ミッシングの表示 (ALL)] を使用すると、コードに改行が発生し、実行時にエラーメッセージが表示されます。(02108938)
- ❑ InfoAssist または WebFOCUS DESIGNER のフィルタで、特殊文字が表示されません。(02115258、02119317)
- ❑ 日本語のマスターファイルからビジュアライゼーションを作成する場合、フィルタパネルのフィールド値が疑問符 (?) で表示されます。(02119228)
- ❑ [リモートブランチに切り替え] を選択すると、「FETCH SCM_COMMAND_BAD_CREDENTIALS: Bad SCM credentials」というエラーが発生します。(02034727、02029473、02123596、02125980)

アップグレードに関する注意事項

- ❑ バージョン 9.0.2 で導入されたグローバル検索機能には、以前のバージョンで使用できなかった新しい検索機能が含まれます。これらの新機能を利用するには、バージョン 9.0.2 へのアップグレード後に、WebFOCUS Client および WebFOCUS Reporting Server のすべてのコンテンツを再インデックス化する必要があります。

ESRI ラスタベースマップの廃止

2021 年 6 月 30 日時点で、ESRI ラスタベースマップの多くが廃止および更新停止になりました。

その結果、WebFOCUS バージョン 9.0.2 以降、次のラスタベースマップは、WebFOCUS DESIGNER のベースマップのリストで使用できなくなります。

- ❑ 世界ストリートマップ
- ❑ キャンバスマップ (薄い灰色)
- ❑ キャンバスマップ (濃い灰色)

❑ National Geographic

❑ 世界地形マップ

National Geographic ベースマップを除き、以前にラスタベースマップを使用していたコンテンツは、次のベクタベースマップを使用するよう自動的にリダイレクトされます。

❑ ストリートベクタ

❑ グレーベクタ - これがデフォルト設定のベースマップです。[キャンバスマップ (薄い灰色)] から [グレーベクタ] に変更されました。

❑ ダークグレーベクタ

❑ 地形ベクタ

廃止および更新停止となったベースマップについての詳細は、「<https://www.esri.com/arcgis-blog/products/arcgis-online/announcements/reminder-raster-basemaps-moved-to-mature-support/>」を参照してください。

既知の問題

- ❑ IBM i (i5 および OS/400 と呼ばれる) オペレーティングシステムで稼働するマシンに WebFOCUS Reporting Server をインストールすると、通常のインストールメッセージ以外に、次のエラーメッセージが返されます。ライブラリ名は異なる可能性があることに注意してください。

ISSETUP: Installation Step completed with errors

inu: CPYF FROMFILE(R729000DTP/CFG) TOFILE(SRV90/CFG) FROMMBR(VERSION)
TOMBR(VERSION) MBROPT(*REPLACE) CRTFILE(*YES)

You can disregard this message. The copy operation completes successfully.

- ❑ Developer グループの権限を持つユーザには、割り当てられていないアプリケーションディレクトリから取得したコンテンツが検索結果に表示されます。これらのユーザには、検索結果のリストにこれらの項目についての情報が表示されますが、これを実行、コピー、編集することはできません。

5

バージョン 9.0.1 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、[TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイト](#)にアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス

- ☐ [バージョンおよびビルド情報](#)
- ☐ [新機能](#)
- ☐ [修正済み問題](#)
- ☐ [アップグレードに関する注意事項](#)

バージョンおよびビルド情報

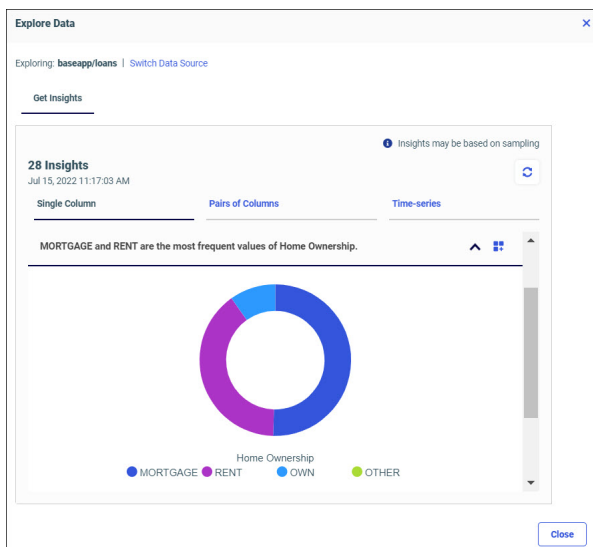
リリース日	ビルド番号	Reporting Server
2022 年 4 月	wf040422a Gen 5 wi040422a as032222a	901 Gen 2354

新機能

ここでは、上記バージョンの新機能について説明します。

TIBCO WebFOCUS Hub での Instant Insights の生成

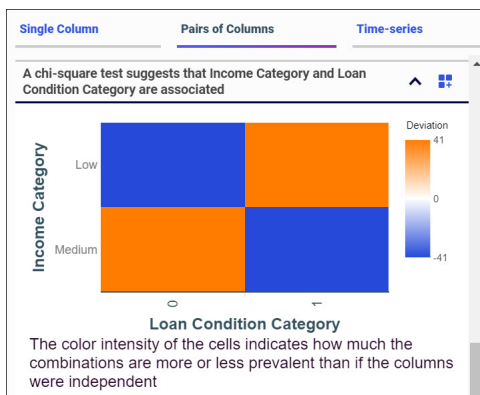
Instant Insights を WebFOCUS Hub から直接生成できるようになりました。インサイトの表示は、TIBCO WebFOCUS DESIGNER での表示と同様です。



生成されたグラフは新しいウィンドウで実行することもできます。グラフをワークスペースに保存後、WebFOCUS DESIGNER で開いて編集することができます。

新しい Instant Insights での関連性表示

Instant Insights では、各列が互いに独立しているかどうかを識別する関連性データ分析が可能になりました。下図のように、関連性インサイトは、カイ 2 乗グラフとして生成されます。

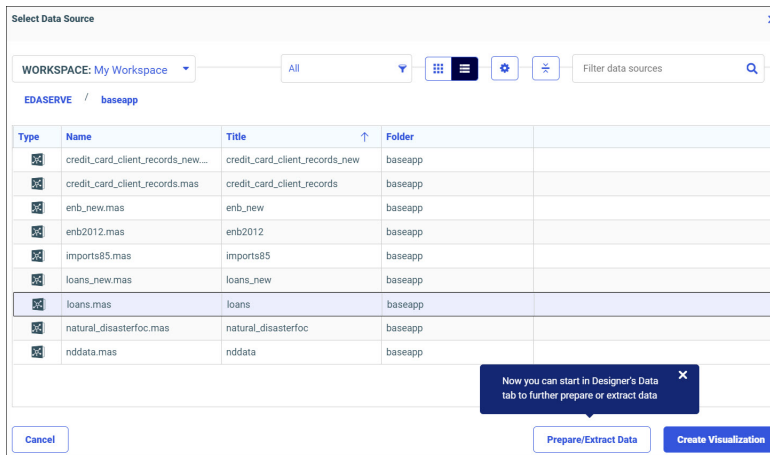


セルの色の濃淡は、列が独立している場合と比較した組み合わせの影響度を示します。

TIBCO WebFOCUS DESIGNER のデータタブへのダイレクトナビゲーション

ビジュアライゼーションの作成時に、データソースの選択後、自動的に [ビジュアライゼーション] タブに移動せず、WebFOCUS DESIGNER の [データ] タブに直接移動して、データの準備を続けたりデータ抽出を実行したりできるようになりました。

[データソースの選択] ダイアログボックスで、[データの準備/抽出] ボタンをクリックすると、WebFOCUS DESIGNER の [データ] タブに移動します。



TIBCO WebFOCUS Reporting Server 接続によるグループメンバーシップの転送

Reporting Server 接続または Cluster Manager 接続で Kerberos セキュリティオプションが選択されている場合、接続を開始するユーザのグループメンバーシップが、そのユーザ ID と Kerberos チケットとともに Client から WebFOCUS Reporting Server に転送されます。グループメンバーシップを転送することで、ユーザは、Client と同一レベルのリソースと機能へのアクセスを Reporting Server 上で維持することができます。グループメンバーシップの転送を Kerberos オプションに追加すると、この新機能により、Trusted セキュリティオプションを使用した場合のみ利用可能だった機能が拡張されます。

Kerberos セキュリティを使用した Linux ベースの TIBCO WebFOCUS Reporting Server でのローカルユーザ ID の省略

Linux オペレーティングシステムで稼働する WebFOCUS Reporting Server で、Linux System Security Services Daemon (SSSD) サービスがサポートされるようになりました。この新機能を使用すると、Kerberos セキュリティを使用するよう構成された Linux ベースの WebFOCUS Reporting Server では、偽装プロセスの完了および有効な WebFOCUS ユーザ ID からのリクエスト認証のために Active Directory で定義された一連のローカルユーザ ID の複製が不要になります。

この新機能を利用するには、WebFOCUS Reporting Server 上の Linux オペレーティングシステムを、SSSD サービスを使用するよう構成する必要があります。詳細は、Linux プロバイダの製品マニュアルを参照してください。

修正済み問題

- ❑ レポートタイプを Active Report (AHTML) に変更すると、ACROSS フィールドを含む条件スタイルが正しく機能しません。(02029331)
- ❑ ポータルのページを切り替えた際に、サブメニューナビゲーションがないページまたはタブにサブメニューナビゲーションが表示されます。(02032489)
- ❑ ドロップダウンコントロールに XML データを設定することはできません。(02080963)
- ❑ オフラインのローカルインストールで HTML ページを実行できません。(02075145)
- ❑ WebFOCUS バージョン 8.2.05 から WebFOCUS バージョン 8.2.07.28.07 にアップグレードした後、HTML ページが読み込まれない場合があります。
- ❑ カレンダーコントロールに特定の文字を入力できません。(02063335)
- ❑ HTML ドキュメント内の ESRI マップに AHTML レポートを追加すると、マップの読み込みが停止し、ブラウザコンソールでエラーが生成されます。(02084818)
- ❑ 単純な Reporting Server との接続または切断で、メモリリークが発生する場合があります。
- ❑ ターゲットでは、リストされた Cookie に secure 属性を設定することによって、SSL データ転送によるセッション Cookie の送信は強制されません。(02085296)
- ❑ InfoAssist で、フォーマットが可変長アルファのローカル変数 (&) を使用する DEFINE ステートメントを含むプロシジャを編集する際に、エラーメッセージが生成され、編集できません。(02083455)
- ❑ ReportCaster の一時フォルダ内のレポートが、配信スケジュールの完了後に削除されません。(02030865、02080320)

- ❑ TIBCO WebFOCUS DESIGNER のページで保存済みブックマークを読み込むと、レポートが破損されます。(02089329)
- ❑ ページ/検索コントロールの [選択値を保持] オプションは、値をダブルクリックしても選択されません。
- ❑ デフォルト値のプロパティフィールドを削除するときに、グローバル変数 (&&) をデフォルト値として使用することはできません。(02087127)
- ❑ TIBCO WebFOCUS DESIGNER ページの連鎖フィルタでは、子フィルタのデフォルトが表示されません。(02028496、02087401)
- ❑ ページをスクロールするときに、フィールド値のリストがドロップダウンリストから分離されてページ上を浮動します (02016520、02072416)
- ❑ ホームページの [すべて表示] オプションで、タイルアイコンに割り当てられたイメージが正しく表示されません。(02030799)
- ❑ WebFOCUS App Studio でコントロール値がブランクの場合、連鎖が機能しません。(02091077)
- ❑ HTML コンポーザを使用するレポートの一部で、実行時にループが継続的に発生します。(02091582)
- ❑ [選択項目を保存] 機能では、連鎖コントロールの最下位レベルの設定が保存されません。(02032325)
- ❑ save_selection.htm でリセットボタンのクリックによるカレンダーコントロール値の動作が異なります。(02092340)
- ❑ ユーザが InfoAssist で保存済みのファイルを開こうとする際に表示されていた「FOC205: マスターファイルがありません」メッセージが表示されなくなりました。(02085499)
- ❑ ユーザは、Kerberos セキュリティ用に構成された WebFOCUS Reporting Server へのアクセスに、大文字と小文字の混在するユーザ ID を使用できるようになりました。この場合、HTTP 403 エラーメッセージは返されません。(02098558)
- ❑ WebFOCUS ログインページで、大文字のユーザ名が使用できません。(02099640、02096134、02109910)
- ❑ パラメータ値がスタンドアロンページまたはポータルページに含まれている場合に、LRU キャッシュがオートプロンプトプロシジャからパラメータ値を取得できない問題が修正されました。(02099035)

- ❑ セキュリティセンターのグループが正しく継承されないため、セキュリティセンターのグループとしてユーザ ID が、WebFOCUS Client から Kerberos セキュリティを使用するよう構成された WebFOCUS Reporting Server に継承されます。(02099485)
- ❑ Reporting Server で、結合されたプロバイダ名とグループ名に 9 バイト以上の文字が含まれる場合、グループプロファイルが適用されません。(02089671)
- ❑ マーカーモードで円グラフを描画するマップレイヤには、最大 10 個までの円項目を表示できます。円項目が 10 個を超える円グラフは、シリーズ色のブレンドとして描画されません。

アップグレードに関する注意事項

- ❑ Python アダプタ、および WebFOCUS Reporting Server での COMPUTE コマンドおよび DEFINE コマンドで使用する PYTHON 関数のサポートは、Windows または x64 ベースの Linux オペレーティングシステムで実行される WebFOCUS インストールでのみ使用できます。他のアーキテクチャでは、これらの機能は機能しないか、使用できません。

6

バージョン 9.0.0 リリースガイド

ここでは、WebFOCUS の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

このマニュアルのオンラインバージョンおよびこのバージョンについての詳細は、[TIBCO WebFOCUS 製品ドキュメントサイト](#)にアクセスし、[Documentation] タブから製品グループへのリンクを選択してください。

トピックス

- ☐ [バージョンおよびビルド情報](#)
- ☐ [新機能](#)
- ☐ [修正済み問題](#)
- ☐ [アップグレードに関する注意事項](#)
- ☐ [ESRI 人口統計レイヤの廃止と追加](#)
- ☐ [既知の問題](#)
- ☐ [ブラウザ情報](#)

バージョンおよびビルド情報

リリース日	ビルド番号	Reporting Server
2022 年 2 月	wf021322b Gen 2 wi021322b as021222a	900 Gen 2351

新機能

ここでは、上記バージョンの新機能について説明します。

TIBCO WebFOCUS コンテナエディション

TIBCO WebFOCUS コンテナエディション (CE) は、コンテナベースの展開向けに設計された、拡張性の高いマイクロサービスベースの分析プラットフォームを提供します。この新しいエディションは、必要なすべての OS コンポーネントとライブラリを含むコンテナイメージに TIBCO WebFOCUS ソフトウェアコンポーネントをパッケージ化し、Kubernetes クラスタで展開および実行することができます。

TIBCO WebFOCUS CE で利用可能な利点と効果は以下のとおりです。

- ❑ **自動展開** 展開が必要な WebFOCUS コンポーネント (例、Reporting Server)、および展開先 (例、特定のクラスタ) を識別します。
- ❑ **運用コストとインフラストラクチャコストの削減** 必要に応じて、Kubernetes クラスタにサービスとリソースを追加または削除します。データソースは、クラウド環境 (プライベート、パブリック) にもオンプレミス環境にも存在できます。
- ❑ **導入および利用の拡大** ターゲットユーザ向けに固有の BI アプリケーションをオンプレミス環境で開発し、必要に応じてクラウド環境で展開します。Kubernetes 環境に WebFOCUS をインストールすると、開発とテストが内部クラスタまたは外部クラスタ内で行われます。
- ❑ **ポータビリティ** クラウド環境とオンプレミス環境の間で完全移植可能です。
- ❑ **ダイナミックオートスケーリング** ワークロードリソースを迅速に調整し、ユーザおよびデータの要求に対応します。
- ❑ **効率的なアップグレード** Kubernetes クラスタでは、一括アップグレードがサポートされており、以前のインストールの構成およびログは保持されます。

クラウドプロバイダが提供する既存の Kubernetes サービスも利用できます (例、Amazon Elastic Kubernetes サービス (EKS))。

TIBCO WebFOCUS CE を Kubernetes 環境で展開することで、プライベートクラウドのさまざまな展開オプションが使用でき、ダイナミックワークロードに基づいて一元管理できます。

Docker イメージを使用することで、TIBCO WebFOCUS プラットフォームの主要コンポーネントと機能を分離し、特定のコンテナにパッケージ化して Kubernetes で実行できます。その結果、WebFOCUS の各コンポーネントが個別にスケーリングされ、ユーザ、データ、およびデータソースへのオンデマンド対応が可能になります。

TIBCO WebFOCUS DSML サービスのコンテナエディション

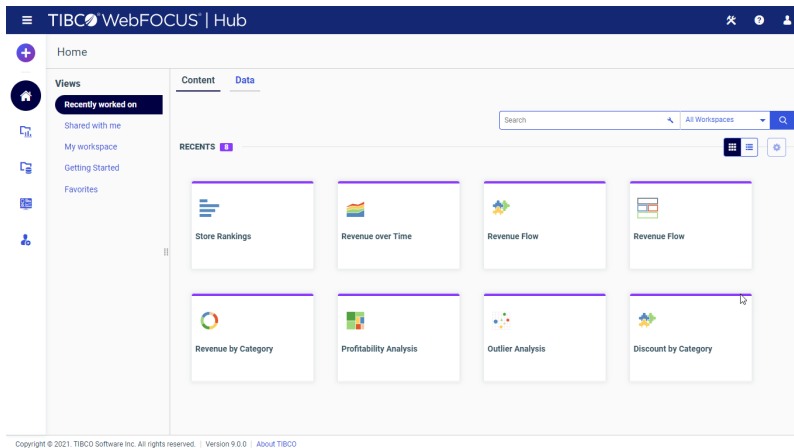
TIBCO WebFOCUS は、コンテナ化されたデータサイエンスと機械学習 (DSML) のプラットフォームを提供します。これは、TIBCO WebFOCUS コンテナエディション (CE) を使用して Kubernetes クラスタで展開、実行することもできます。

TIBCO WebFOCUS DSML CE は、次の 3 つのサービスで構成されます。

- ❑ **Instant Insights (自動分析)** データセットに対する高度な分析の実行およびビジュアライゼーションやナレーションの生成が行えます。この場合、手動でのデータ準備や分析、データサイエンスや統計の予備知識は必要ありません。
- ❑ **機械学習関数 (ML 関数)** データフローの作成時に、高度な統計の知識がなくても、機械学習関数を使用して、データセットに対して予測分析を簡単に実行することができます。
- ❑ **メタデータ分類 (メタデータ)** データを検証し、フィールドに対して分類を割り当てます。その後、この分類は、別のデータソースのフィールドとの一致に使用することができます。アップロードするデータを分類し、この分類を使用して、データフローの UNION でフィールドを一致させることができます。

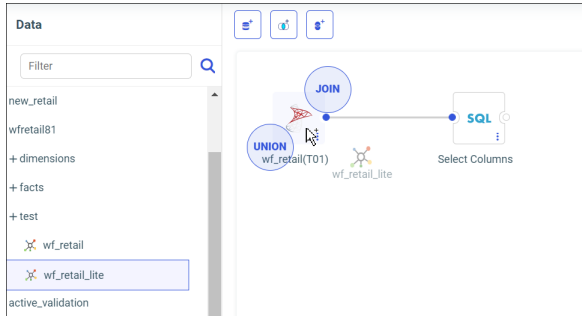
TIBCO WebFOCUS Hub

TIBCO WebFOCUS Hub からは、TIBCO WebFOCUS のすべてのエリアにナビゲートできます。TIBCO WebFOCUS Hub は、統合されたコンテンツ作成機能とシームレスな管理操作の両方にアクセス可能な統一ツールです。この新しいバージョンでは、WebFOCUS Client と Reporting Server の両方の最近使用した項目とお気に入りの項目をホームビューから直接表示できます。また、統合されたページツールバーを活用して、すべてのアクションメニューにアクセスしたり、コンテンツをソートしたり、リストビューとタイルビューを切り替えたり、表示する列を選択したりできます。デザインが一新されたユーザインターフェースでは、コンテンツを一目で直観的に識別することができます。



TIBCO WebFOCUS DESIGNER のデータタブの機能強化

WebFOCUS DESIGNER でコンテンツを作成する場合、[データ] タブでの新しいオプションを使用してデータの強化と操作を行えます。ユーザは、他のデータソースとの JOIN および UNION を作成したり、列の選択を変更したり、新しい演算を追加したり、指定した条件に基づくレコードのフィルタを実行したりできます。また、データプロファイル情報にアクセスし、実行したアクションに基づいて結果のデータを分析することができます。



TIBCO WebFOCUS DESIGNER のページコンテナの強化

WebFOCUS DESIGNER でページを作成する際に、ページキャンバス上でコンテナを直接結合、分離、複製することが可能になり、ページのレイアウトやコンテンツをより迅速かつ簡単にカスタマイズできるようになりました。

ドラッグアンドドロップ機能が拡張され、コンテナの結合に新しいオプションが追加されました。デフォルト設定では、ページ上の新しい場所にコンテナをドラッグすると、既存のコンテナが移動し、コンテナの配置順序を変更できます。他のコンテナが移動しないようにするには、Ctrl キーを押しながらコンテナを新しい場所にドラッグします。ページ上の別の既存コンテナ上にドロップすると、これらを結合するオプションが表示され、結合先の複数コンテンツコンテナのタイプを選択することができます。タブ、アコーディオン、カルーセル、パネルグループコンテナに結合することができます。

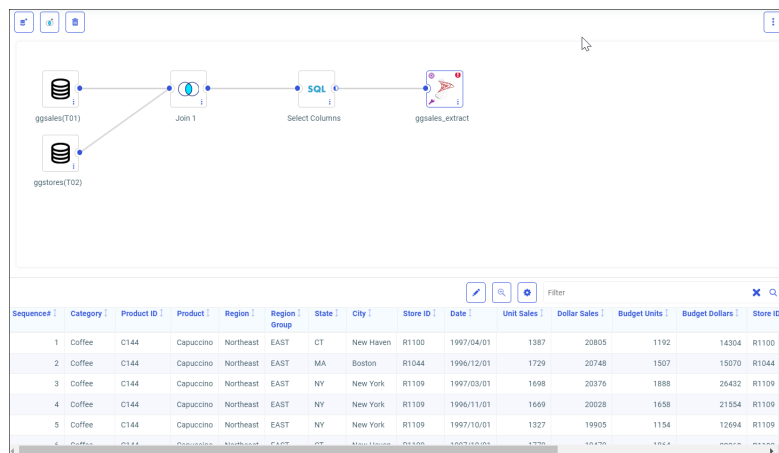
タブ、アコーディオン、カルーセルコンテナなどの複数コンテンツコンテナを作成する場合は、コンテナを結合するか、[コンテナ] タブのオプションを使用して、コンテナとコンテナ内のすべてのコンテンツを簡単に複製することができます。この場合は、コンテナを右クリックして [コンテナの複製] をクリックします。これにより、各項目を新しい複数コンテンツコンテナに再度追加する時間が節約できます。

別の方法として、パネルグループ内に複数のコンテナを含めることもできます。パネルグループを使用すると、画面サイズが縮小される際に、レスポンス折り返し動作で複数のコンテナをまとめておくことができます。後からパネルグループのコンテナを削除する場合は、次のいずれかの方法で削除できます。パネルグループから 1 つのコンテナを削除するには、コンテナを右クリックして [キャンバスへ移動] を選択します。パネルグループを完全に解除し、ページ上にコンテナを残す場合は、パネルグループのブランク領域を右クリックし、[パネルグループからコンテナを削除] を選択します。コンテナがページのブランク領域に追加されます。

TIBCO WebFOCUS DESIGNER での HOLD ファイルの作成

ステー징テーブル (HOLD ファイル) を作成する新しいワークフローが、TIBCO WebFOCUS DESIGNER で作成したコンテンツで使用できます。ステー징テーブルを作成すると、ユーザは DESIGNER の [データ] タブでデータに対して実行したアクションを、セッションベースのファイルまたは永続ファイルとして保存できます。

この新しいデータソースは、コンテンツの作成に使用することができます。この機能を使用することで、コンテンツ作成の柔軟性が高まり、より複雑なグラフやレポートの作成が可能になります。



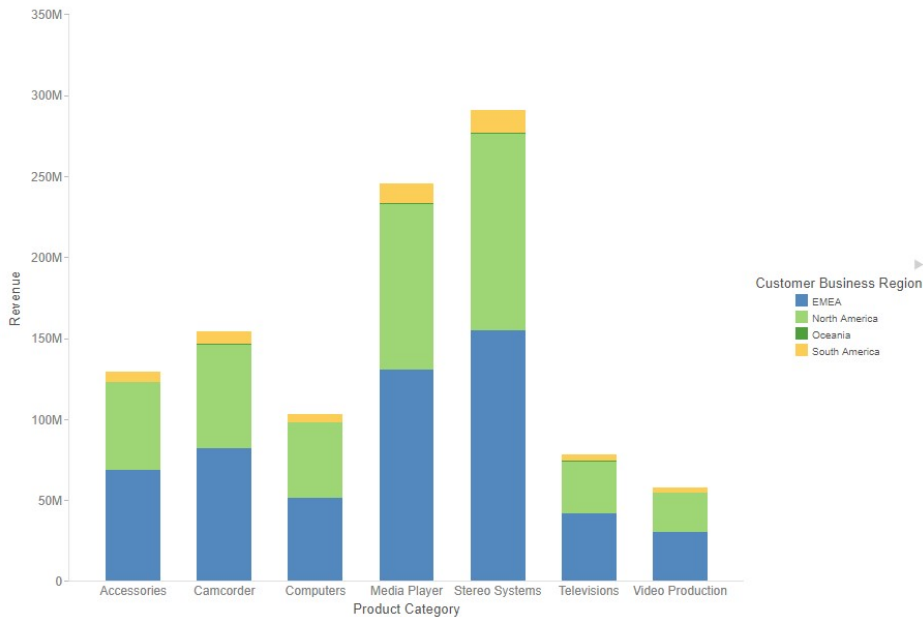
複数ディメンショングラフでのオートドリルダウン結果のフィルタ

[オートドリルダウン] 機能を有効にすると、データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動が可能になります。これにより、ユーザの情報ニーズに応じて、特定エリアのデータを確認したり、データソース構造内を移動したりできます。

レポートにドリルダウンする場合、結果は選択した値および上位ソートフィールドの関連する値に基づいてフィルタされます。下位フィールドで適用される値はすべて表示されます。グラフには明示的なフィールド階層が存在しないため、実行時のメニューからさまざまなオプションを選択して、複数ディメンションを含むグラフでオートドリルダウンを使用する際のフィルタの適用方法を指定することができます。これにより、グラフ内のデータ階層ナビゲートでグラフの詳細レベルが指定でき、オートドリルダウン機能による瞬間的操作性と特定レベルのユーザコントロールを組み合わせたことができます。

複数ディメンションフィールドを含む (例、[横] バケットに 1 つのディメンションフィールドと [色] バケットに別のディメンションフィールドが存在する) グラフでオートドリルダウンを有効にした場合、実行時オプションの選択に基づいて、オートドリルダウンナビゲーションの一部としてフィルタを適用するかどうかを選択できます。フィルタの適用を選択した場合、オートドリルダウンを使用してフィールド階層にドリルダウンすると、結果は、クリックしたグラフ領域にドリルダウンし、この領域に関連するすべてのディメンションフィールドの値に基づいてフィルタされます。フィルタの適用を選択しなかった場合、ドリルダウン先のディメンションは、階層内の次のフィールドで置換され、選択したオートドリルダウンリンクの値でフィルタされます。その他のフィールドはフィルタされません。グラフには、他のディメンションフィールドに適用可能なすべての値が表示されます。

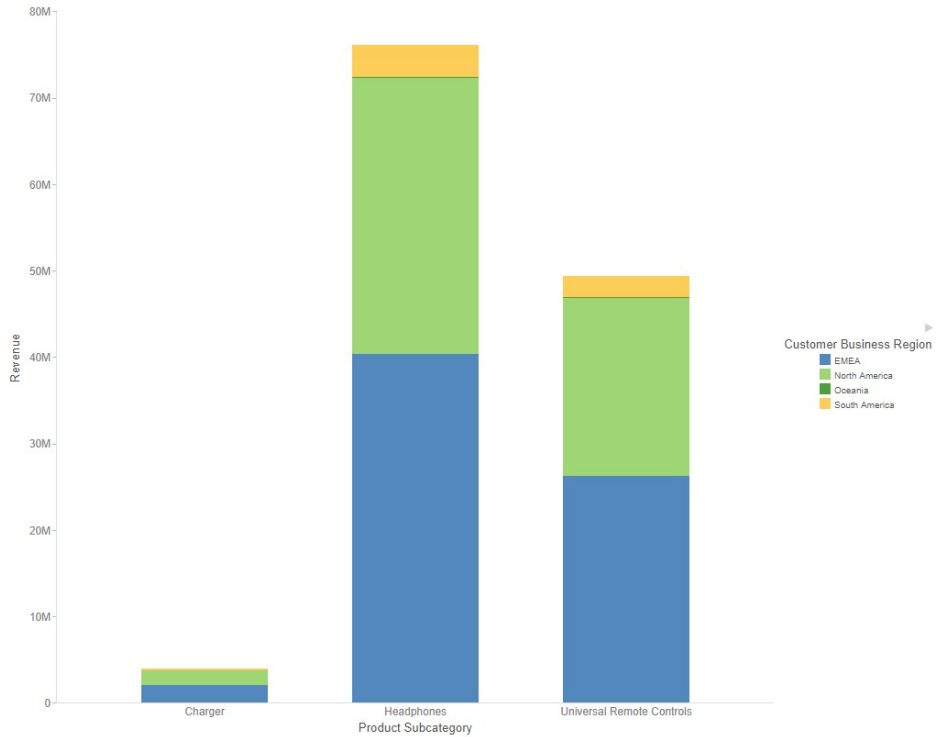
たとえば、下図は、[横] バケットに [製品区分] フィールド、[色] バケットに [顧客ビジネス地方区分] を使用した積み上げ棒グラフを示しています。



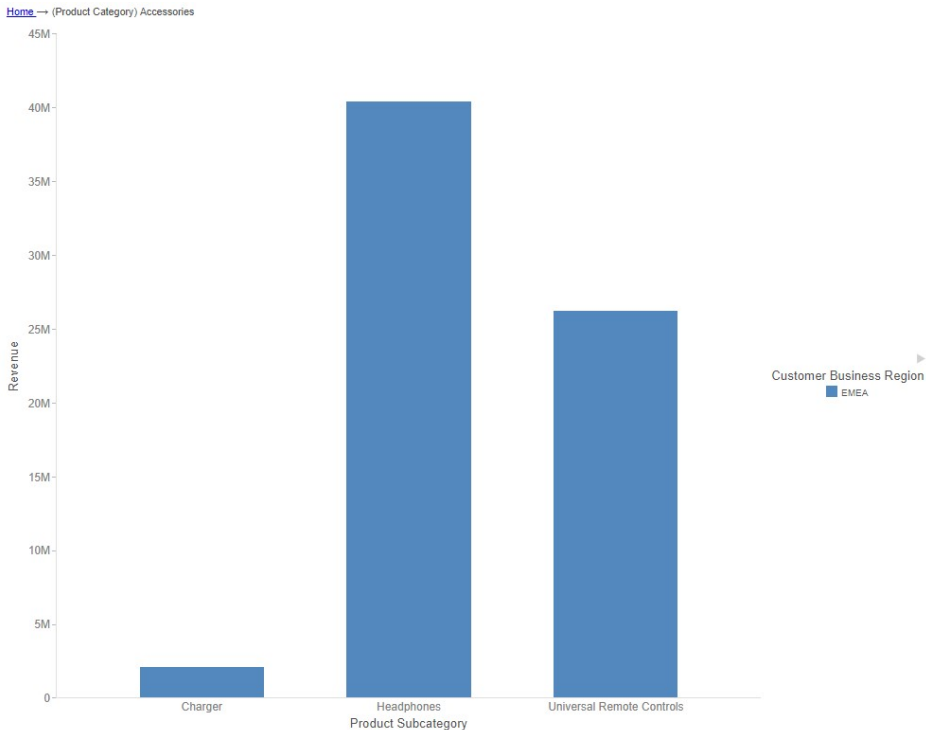
このグラフを実行し、グラフのセグメントにマウスポインタを置くと、下図のように、フィルタ付きまたはフィルタなしのオートドリルダウンを使用するオプションがツールヒントに表示されます。



オートドリルダウンを使用して、[Accessories] ライザのセグメントから [製品区分] フィールドにドリルダウンし、フィルタの適用を選択しなかった場合、下図のように、結果のグラフには、すべての [顧客ビジネス地方区分] の [付属品] 内のサブカテゴリが表示されます。



[Accessories] ライザのセグメントから [製品区分] にドリルダウンし、フィルタの適用を選択した場合、下図のように、結果のグラフにはドリルダウン先のセグメントの [顧客ビジネス地方区分] のみが表示されます。

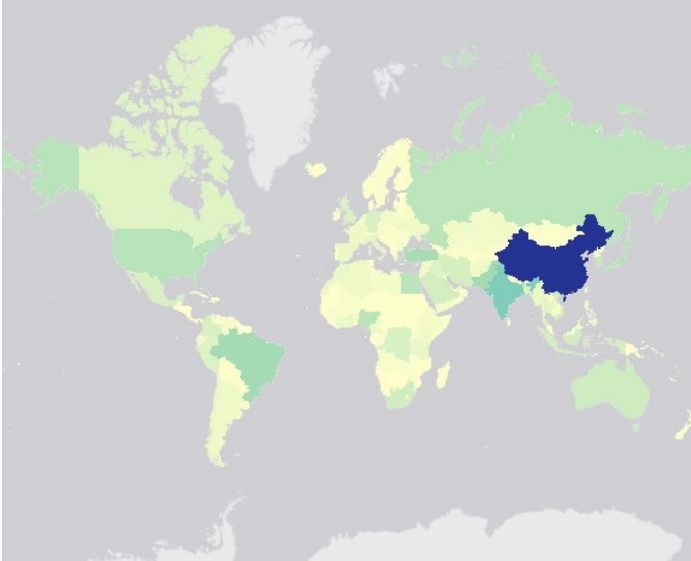


TIBCO WebFOCUS DESIGNER のマルチレイヤマップ

WebFOCUS DESIGNER のユーザーインターフェースを使用して、単一データソースからマルチレイヤマップを作成することができます。マルチレイヤマップは、複数の地理位置情報フィールドとデータソースの地理情報を単一マップに表示するスタンドアロンのプロシジャとして作成でき、比較がしやすくなります。さらに、追加のデータレイヤとコンテンツレイヤでマップを強化することができます。これらは、WebFOCUS DESIGNER で直接作成することも、既存のマッププロシジャまたは構成済みコンテキストレイヤから参照することもできます。

マルチレイヤマップ作成の実行時インターフェースでは、ESRI ArcGIS Online またはオンプレミスの ArcGIS サーバによるナビゲーション機能も使用できます。これにより、マップビューでのナビゲート、選択、調整が可能になり、コンテンツの掘り下げや本質的な情報の把握がしやすくなります。

コロプレスマップまたはバブルマップがデータレイヤとして使用できます。コロプレスマップは、地理情報に基づくヒートマップを作成する場合に使用します。コロプレスマップは、位置に基づくデータ傾向および地域全体のデータ分布を視覚化するのに便利です。以下はその例です。



バブルマップは、異なるサイズのシンボルを使用して、マップ内のさまざまな領域または地点に関連するデータを表示します。下図はその例です。



これらのデータレイヤは、リポジトリまたは ESRI ArcGIS から参照されるコンテンツレイヤを使用して強化し、データに関する洞察を深めることができます。

指定数でのビンの作成

ビンにより、メジャーフィールドの値範囲を使用してコンテンツを並べ替え、データの分散と分布を簡単に確認することができます。ビンの一般的な使用例としてヒストグラムがあります。

WebFOCUS DESIGNER では、2 つの方法でビンを作成することができます。ビン幅を指定することで、ビン化されたメジャーフィールドのすべての値を含む固定範囲のビンが作成されます。別の方法として、作成するビンの数を指定して、メジャーフィールドの値の合計範囲に関係なく同じ数のビンが生成され、各ビンのサイズが適切に変更されるようにすることができます。固定数のビン指定することで、グラフまたはレポートのソート値の数を制御できるため、解釈がしやすくなります。

任意の数のビンを作成するには、メジャーフィールドを右クリックし、[ビン値] を選択します。下図のように、ビンの作成オプションが表示されます。

Bin type

Width Number

Bin width

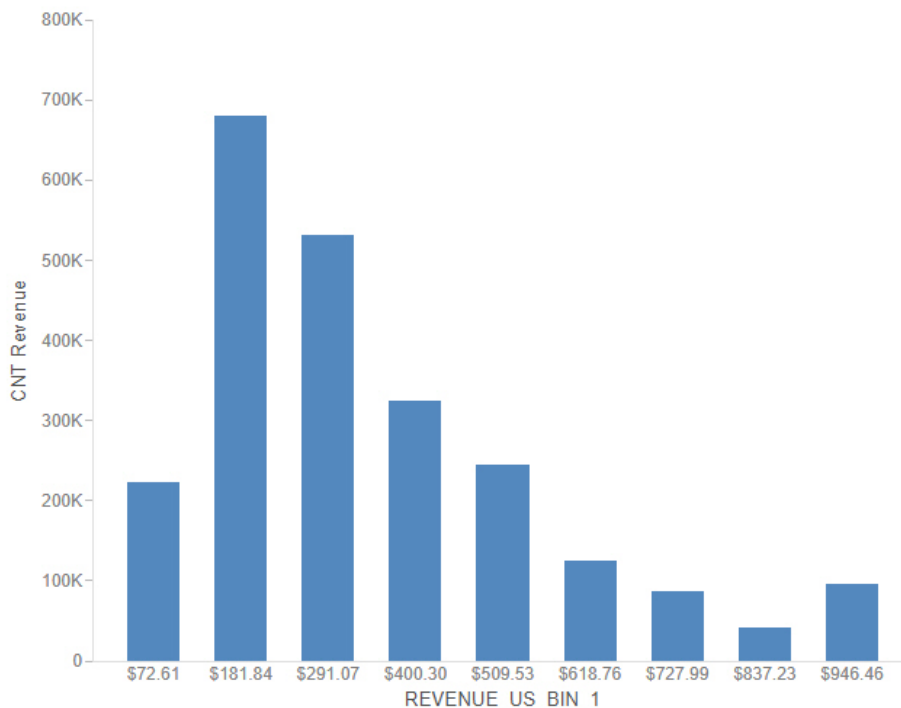
100

Show as

Value Range

Cancel OK

[ビンのタイプ] を [個数] に設定し、[ビンの数] テキストボックスに、コンテンツに表示するビンの数を入力します。この値は、0 より大きい整数にする必要があります。[OK] をクリックし、ビンを作成します。ビンは、フィールドリストの [ディメンション] から使用可能な新しいフィールドとして作成され、ソートフィールドとしてコンテンツに追加できます。ヒストグラムを作成するには、棒グラフの [横] バケットにビンを追加し、ビンを作成したフィールドと同じフィールドを [縦] バケットにメジャーフィールドとして追加します。最後に、[件数] 集計をメジャーフィールドに適用します。下図は、ビンの数を 9 に設定し、9 個のビンが作成されたヒストグラムを示しています。



日付時間フィールドのフィルタ

日付時間範囲の開始点と終了点の日付と時間を指定することで、WebFOCUS DESIGNER の日付時間フィールドにフィルタを設定することができます。これにより、日付時間フィールドに精度の高いフィルタを適用でき、1 日以内でもフィルタを設定することができます。

WebFOCUS DESIGNER のグラフ、レポート、ページの日付時間フィールドでプロンプトフィルタまたは静的フィルタを作成する場合、通常の日付フィルタオプションに加えて、時間範囲を設定するオプションおよびタイムゾーンを変更するオプションが使用できます。静的フィルタの範囲を選択するか、プロンプトフィルタの [カスタム] 範囲オプションを使用することで、下図のように、時間、分、秒、ミリ秒、および 12 時間システムの半日を設定するスピナがカレンダーの下に表示されます。数値を入力することもできます。

The screenshot displays the date and time selection interface in WebFOCUS DESIGNER. At the top, there are dropdown menus for the month (Jan) and year (2016). Below these are two calendar views. The left calendar shows January 2016, with dates 1 through 31. The right calendar shows February 2016, with dates 1 through 29. Below the calendars, there is a checkbox labeled "Apply time range" which is checked. Underneath the checkbox are two sections: "Start time" and "End time". Each section contains five input fields for time units (hours, minutes, seconds, milliseconds) and a dropdown for the time zone (AM/PM). The "Start time" fields are set to 12h, 00m, 00s, 000ms, and AM. The "End time" fields are set to 06h, 13m, 00s, 000ms, and AM.

January 2016							February 2016						
Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa	Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29					
31													

☒ Apply time range

Start time					End time				
12h	00m	00s	000ms	AM	06h	13m	00s	000ms	AM

選択した開始時間は、時間範囲の開始日に適用され、終了時間は終了日に適用されます。

使用可能な時間構成要素は、フィルタが適用される日付時間フィールドのフォーマットによって異なります。下図は、精度が分単位に設定された HYYMDI フォーマットを使用したフィールドの日付時間フィルタコントロールを示しています。その結果、時間と分の時間構成要素のみが設定でき、残りの単位は表示されません。

< Aug 2018 > September 2018 >

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa	Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
			1	2	3	4							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
							30						

☒ Apply time range

Start time

07h 05m AM

End time

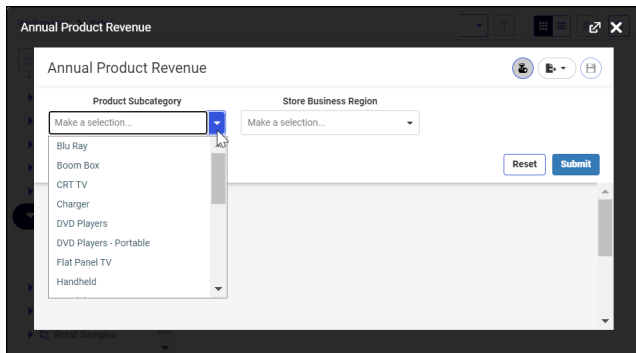
04h 19m PM

日付時間範囲の設定後、開始時間と終了時間に適用するタイムゾーンを変更し、ユーザの現在地とデータの記録元との時差に基づいて、フィルタ済みのデータを調整することもできます。

新しいデフォルトオートプロンプトテンプレート

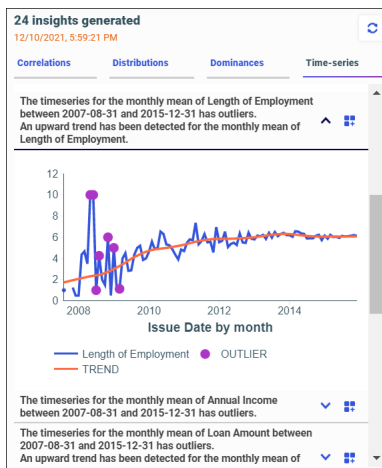
デザイナオートプロンプトテンプレートが、選択パラメータを含む WebFOCUS DESIGNER コンテンツのデフォルトインターフェースになりました。

この新しいデフォルトテンプレートでは、WebFOCUS DESIGNER ページの外観に近い使い慣れたレイアウトで、迅速かつ直観的なフィルタ動作が適用されます。デフォルト値が指定されていないパラメータを含むコンテンツを実行すると、最初にデザイナーオートプロンプトページが表示されます。下図のように、ユーザは、フォーマット固有の自動生成コントロールと各コントロールで使用可能な値を使用して、これらのパラメータに値を指定することができます。



Instant Insights の時系列グラフ

Instant Insights では、データセットの長期的な傾向および季節性を確認できるようになりました。時系列機能は、データ内の時系列を自動的に検出します。データ内で季節性または傾向が特定されると、これらがグラフとして表示されます。



これらのグラフは WebFOCUS DESIGNER キャンバスに追加してページを作成したり、既存ページやダッシュボードに追加したりできます。さらに、これらの分析情報を保存し、他のユーザと共有することもできます。

Excel テーブルでのデータの出力

WebFOCUS DESIGNER では、コンテンツを作成し、データを Excel テーブルとして出力できるようになりました。これにより、結果の出力を Excel で簡単にフィルタしたり並べ替えたりすることができます。

[ビジュアライゼーション] タブで、作成したコンテンツの出力フォーマットとして [XLSX] を選択し、[出力の設定] の [XLSX 機能] 下で [Excel テーブルを有効にする] のチェックをオンにします。

The screenshot shows the 'Settings' tab with the 'Format' section expanded. The 'Output Settings' dropdown is set to 'XLSX'. Below this, the 'XLSX Page' section includes a 'Reset styling' link, 'Page Size' set to 'Letter', and 'Orientation' set to 'Portrait' (with 'Landscape' also available). The 'Page Margins' section shows four checkboxes (Left, Top, Right, Bottom) all checked, each with a value of '0' and a unit of 'in'. The 'XLSX Features' section has a checkbox for 'Enable Excel Tables' which is checked, and a text box labeled 'My_Table' below it.

Excel テーブル

Excel XLSX 出力フォーマットでは、新しい Excel テーブル機能を使用して、レポート内のデータを定義済みのテーブルにグループ化できます。スタイルシート内で `TYPE=DATA` 宣言に `IN-XLSXTABLE` 属性を使用すると、FORMAT XLSX で生成された XLSX 表形式レポートがワークシート内の Excel テーブルに変換されます。

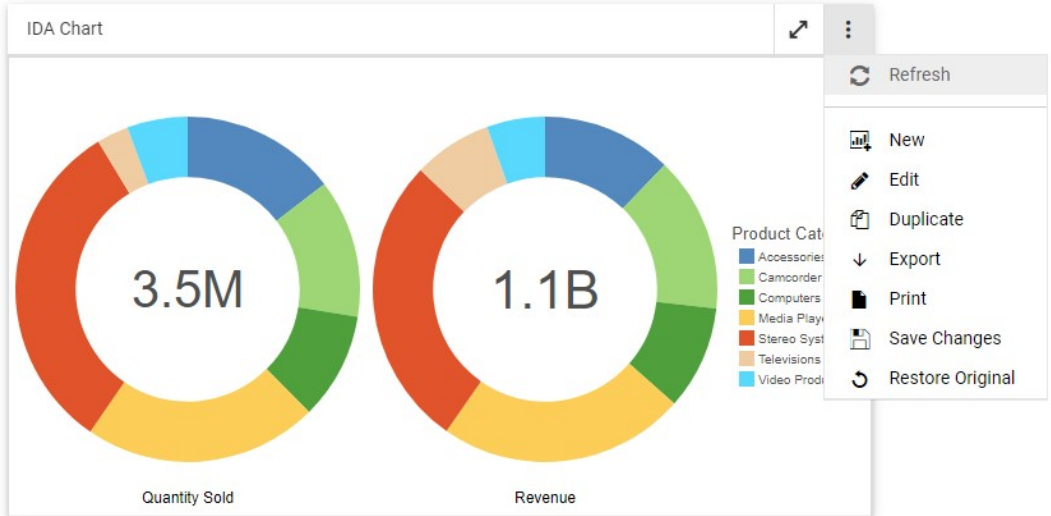
下図のように、Excel テーブルを作成することで、Excel ワークシートのデータに対するソートとフィルタのオプションが自動的に使用できるようになります。これにより、Excel 内に直接表示されるデータの分析、操作、およびスタイル設定が可能になります。

	A	B	C	D	E	F	G
1	MY SALES REPORT						
2							
3	Region	Category	Product	Dollar Sal	Unit Sal	Budget Dolls	Budget Un
4	Midwest	Coffee	Espresso	1294947	101154	1258232	101869
5	Midwest	Coffee	Latte	2883566	231623	2827800	233657
6	Midwest	Food	Biscotti	1091727	86185	1061629	85839
7	Midwest	Food	Croissant	1751124	139182	1708733	139648
8	Midwest	Food	Scone	1495420	116127	1444369	113776
9	Midwest	Gifts	Coffee Grinder	619154	50393	613453	50628
10	Midwest	Gifts	Coffee Pot	599878	47156	614007	47779
11	Midwest	Gifts	Thermos	977996	45587	954010	46919
12	Northeast	Coffee	Capuccino	542095	44785	561431	44432
13	Northeast	Coffee	Espresso	850107	68127	872902	69776
14	Northeast	Coffee	Latte	2771815	222866	2818069	221712
15	Northeast	Food	Biscotti	1802005	145242	1848682	145152
16	Northeast	Food	Croissant	1670818	137394	1738922	137864
17	Northeast	Food	Scone	907171	70732	865703	68415
18	Northeast	Gifts	Coffee Grinder	509200	40977	511642	41297
19	Northeast	Gifts	Coffee Pot	590780	46185	573349	45404
20	Northeast	Gifts	Thermos	604098	48870	615247	49787
21	Southeast	Coffee	Capuccino	944000	73264	956661	75353
22	Southeast	Coffee	Espresso	853572	68030	849465	66785
23	Southeast	Coffee	Latte	2617836	209654	2625303	213555
24	Southeast	Food	Biscotti	1505717	119594	1512019	120549
25	Southeast	Food	Croissant	1902359	156456	1969996	157448
26	Southeast	Food	Scone	900655	73779	927363	73812
27	Southeast	Gifts	Coffee Grinder	605777	47083	569585	46784
28	Southeast	Gifts	Coffee Pot	645303	49922	654579	50637
29	Southeast	Gifts	Thermos	612457	48976	618745	48253
30	West	Coffee	Capuccino	895495	71168	877304	70585
31	West	Coffee	Espresso	907617	71675	923941	72927
32	West	Coffee	Latte	2670405	213920	2722718	215272
33	West	Food	Biscotti	863868	70436	861804	67780
34	West	Food	Croissant	2426801	197022	2486554	195389
35	West	Food	Scone	912868	72776	914886	72252
36	West	Gifts	Coffee Grinder	603436	48081	571316	47397
37	West	Gifts	Coffee Pot	613624	47432	630196	49208
38	West	Gifts	Thermos	571368	45648	575918	46482
39	TOTAL			41633789	3328421	41672993	3333862
40	REPORT FOOTING						
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							

集約ページのコンテナでの Analytic Document オプション

WebFOCUS DESIGNER で AHTML 出力フォーマットを使用して作成された Analytic Document のグラフおよびレポートでは、実行時に一連のインタラクティブオプションを使用して、コンテンツで使用されるデータの表示を変更することができます。たとえば、Analytic Document では、グラフタイプの変更、コンテンツ項目のエクスポート、オンデマンドのコンテンツのフィルタ設定などが行えます。

既存コンテンツから作成したページに Analytic Document 項目を追加すると、[オプション] メニューに自動的に表示されるコマンドがページ上のコンテナに統合されます。これにより、Analytic Document コンテンツを含むパネルで簡素化された直観的なユーザインターフェースが使用でき、グラフやレポートで AHTML 出力フォーマットを使用して、追加の実行時オプションをページに簡単に組み込むことができます。下図は、ベーシックパネルコンテナの Analytic Document グラフ実行時の [オプション] メニューを示しています。



Analytic Document レポートの [オプション] メニューからは、次のメニュー項目が使用できます。

- ❑ **新規作成** レポートキャンバスを起動し、元のレポートのフィールドをさまざまなバケットに配置して新しいコンポーネントを作成できます。
- ❑ **エクスポート** レポート内のデータを Excel スプレッドシートまたは CSV ファイルとしてエクスポートしたり、レポートの現在の状態を.html ファイルとして保存したりできます。
- ❑ **印刷** レポートのイメージを印刷できます。
- ❑ **変更の保存** Analytic Document レポートを現在のフォームで HTML ファイルとして保存します。
- ❑ **元に戻す** レポートを元のフォームに戻します。

また、Analytic Document グラフでは、次のメニュー項目が使用できます。

- ❑ **新規作成** グラフキャンバスを起動し、元のグラフのフィールドをさまざまなバケットに配置して新しいコンポーネントを作成できます。

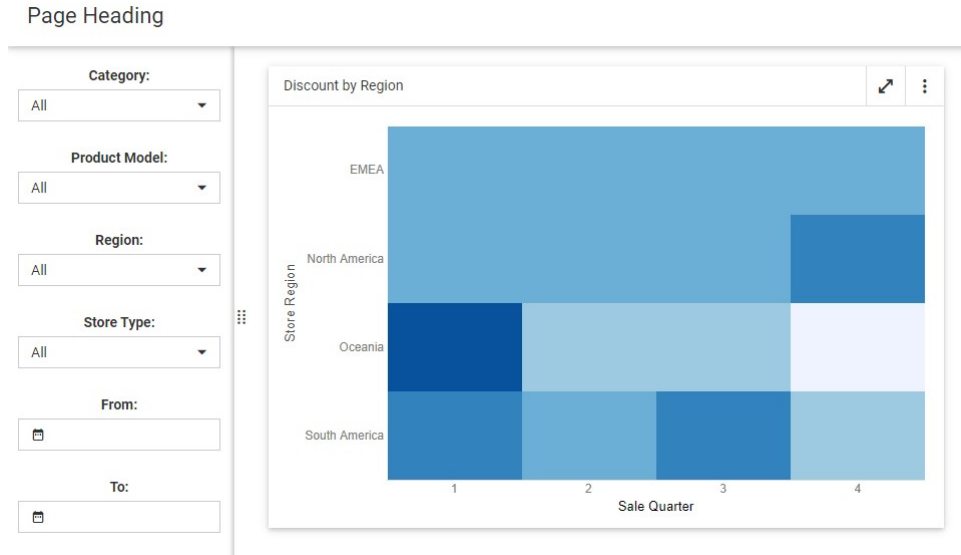
- ❑ **編集** 編集可能なキャンバスでグラフを開きます。
- ❑ **複製の作成** Analytic Document のオプションを使用して編集可能な元のグラフの複製を作成します。
- ❑ **エクスポート** グラフ内のデータを Excel スプレッドシートまたは CSV ファイルとしてエクスポートしたり、グラフのイメージを.png ファイルとして保存したりできます。
- ❑ **印刷** グラフのイメージを印刷できます。
- ❑ **変更の保存** Analytic Document グラフを現在のフォームで HTML ファイルとして保存します。
- ❑ **元に戻す** グラフを元のフォームに戻します。

注意: [オプション] メニューは、Analytic Document の DESIGNER スタイルバージョン (デフォルト設定) を使用する場合のみ表示されます。InfoAssist で作成したコンテンツでのみ使用可能な Analytic Document のレガシーバージョンを使用する場合は、[オプション] メニューがコンテンツツールバーに表示されません。

垂直グリッドでのフィルタコントロールの表示

WebFOCUS DESIGNER の既存コンテンツで作成したページに動的パラメータフィルタを含むコンテンツを追加すると、そのコンテンツのフィルタコントロールをページに追加するプロンプトメッセージが自動的に表示されます。デフォルト設定では、これらのフィルタコントロールは、ページツールバーのすぐ下の水平フィルタグリッドに複数行に分割されて配置されます。別の方法として、フィルタグリッドをページツールバー上部の開閉可能なモーダルウィンドウ、またはページの左側に表示されるスクロール可能な垂直グリッドに移動することができます。

垂直フィルタグリッドは、フィルタコントロールの数が非常に多く、横方向レイアウトでは複数行を使用し、ページ上の広い領域を占有する場合に、非常に便利なオプションです。これらのコントロールに垂直グリッドを使用することで、ページの左側にある小さな固定領域内の単一列にコントロールが配置され、スクロールバーを使用してコントロール間を移動することができます。下図は、垂直フィルタグリッドを含む基本ページを示しています。



垂直フィルタグリッドを使用するには、集約ページへのフィルタコントロールの追加前または後に、キャンバスのページツールバーをクリックしてページ全体を選択し、プロパティパネルの [設定] タブの [左位置] をクリックします。フィルタグリッドの位置を設定するには、[ページフィルタを含める] のチェックをオンにしておく必要があります。

デザイン時にセルを右クリックし、[行を上挿入] または [行を下挿入] をクリックすると、垂直フィルタグリッドに新しいセルを追加できます。さらに、セルに [実行] および [リセット] ボタン、テキストラベル、または割り当て済みでないパラメータのフィルタコントロールをセルに追加できます。ページの実行時には、フィルタグリッドの端にマウスポインタを置き、左右にドラッグすることで、必要に応じてフィルタグリッドの幅を調整できます。

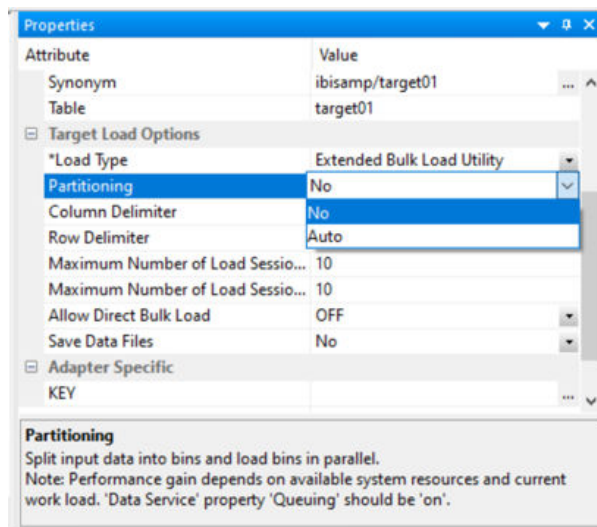
データフロー間でのオブジェクトのコピーおよび貼り付け機能

Data Migrator デスクトップインターフェースのワークスペースのキャンバスでフローを開くと、既存のフローから 1 つまたは複数のオブジェクトをコピーして別のフローに貼り付けることができます。コピーと貼り付け機能は、複数のフロー間でコード (例、SET 変数、Selects on Source) などのオブジェクトを再利用する場合に便利です。この機能はエラーが発生しにくいため、多くのフローの設計で時間を節約できます。

注意：このコピーと貼り付け機能は、Reporting Server ブラウザインターフェースでも使用できます。

データフローのパフォーマンス強化

下図のように、通常のデータフロー、ダイレクトロードフロー、DBMS フローの [ターゲットロードオプション] プロパティに、新しい [パーティション] オプションが追加されました。この機能を使用すると、自動ビン検出でデータを分割でき、データフローのパフォーマンスが向上します。[パーティション] オプションは、最適化されたフローでのみ使用できます。



すべてのビンにはほぼ同じ行数が含まれます。元のリクエストは複数のリクエストに分割され、各リクエストは特定のビンに対してのみデータを読み込みます。このように生成されたリクエストは同時実行されるため、より効率的で高速なリクエストが実行できます。

クラウド環境での ESRI 認証方法

ESRI ArcGIS アダプタに新しい認証文字列 `wappurl` が追加されました。ESRI ArcGIS アダプタは、ESRI ArcGIS Online 環境またはローカルホスト ArcGIS サーバに存在する情報からレポートを作成する際に使用します。`wappurl` 文字列は、[トークンの生成] セキュリティ方法を使用するクライアントアプリケーションのベース URL です。これは、NAMED 認証と基本的に同じであり、クラウド環境で必要です。

REST API を使用した Google Mail アダプタ

新しい Google Mail (Gmail) アダプタでは、Google が提供する無料 Email サービスである Gmail で作業することができます。これには、認可機能とアカウントセキュリティオプションが含まれます。Gmail には、Web ブラウザや公式モバイルアプリでアクセスできます。Google は POP および IMAP プロトコルで Email クライアントの使用をサポートしています。

Google Mail アダプタには、アクセストークンとリフレッシュトークンを保存する接続が必要です。Google Mail API コールを発行するには、有効なアクセストークンとリフレッシュトークンが必要です。これらのトークンは、Google アプリケーションと特定の Google ユーザに関連付けられます。

新しい Apache Parquet アダプタ

Apache Parquet アダプタを使用することで、アプリケーションは、さまざまなデータソースに格納された Apache Parquet ファイルのデータにアクセスできます。アダプタは、Apache Parquet カラムストアからのレポート生成に使用され、分析パフォーマンスを向上させるとともにデータアクセスに要する時間を短縮することができます。また、大規模で複雑なデータセットに最適化されています。このアダプタには、読み取り/書き込み機能があり、アプリケーションからカラムストアにデータを挿入することができます。

SharePoint でのサイトアクセス制限のサポート

Microsoft Graph サイトのアクセス許可では、アプリケーションに対して [Sites.Selected] 権限が使用できるようになりました。アプリケーションに対してこのアクセス権限を選択すると、デフォルト設定で、アプリケーションによる SharePoint サイトコレクションへのアクセスが許可されません。特定のサイトコレクションへのアプリケーションのアクセス許可は、管理者により与えられます。この変更により、ユーザは、クラウド環境からオンプレミスの SharePoint に接続できるようになります。

gzip 解凍での C ベース機能の使用

バージョン 9.0.0 では、Google BigQuery アダプタおよび REST アダプタの gzip 解凍に、C ベースの機能が使用されます。以前のバージョンでは、gzip 解凍に Java ベースの機能が使用されています。

修正済み問題

- ❑ ReportCaster ログおよびコンソールサービスの REST コールでは、HTTP 500 内部サービスエラーメッセージを受信します。(02057711)
- ❑ テキストエディタに表示される半角カタカナ文字にカーソルが正しく配置されるようになりました。(02034777)
- ❑ バージョン 8.2.07.28 で不備が発生したブロードキャストパラメータ機能が修復されました。(02054469)
- ❑ JSChart の円グラフで、otherSliceDrillDown 操作が再度サポートされるようになりました。(02058793)
- ❑ KPI Trend および Sparkline2 グラフ拡張機能に基づくグラフのツールヒントには、完全な値ではなく、四捨五入された値がドルで表示できるようになりました。(02030122)
- ❑ Google Chrome ブラウザで、Arc Gauge グラフの見出しが表示されない問題が修正されました。(02029579)
- ❑ 最後の縦軸フィールド名の値が、マトリックス列を使用するように構成されたバブルグラフに表示されない問題が修正されました。(02028994)
- ❑ マトリックスグラフでデータラベルを有効にすると、マーカーを円に設定した場合にデータ値が正しく出力されない問題が修正されました。(02028914)
- ❑ SQL FETCH FIRST 句は、IF READLIMIT ステートメントに変換されなくなりました。(02030241)
- ❑ Data Migrator コンソールでは、MFC (Microsoft Foundation Class) によるグラフィックスデバイスインターフェース (GDI) リークの問題が修正されました。(02048874)
- ❑ Data Migrator は、EXL07 出力フォーマットをサポートします。(02034587)
- ❑ Data Migrator Console のテキストエディタリボンタブの HBITMAP リークの問題が修正されました。(02048874)
- ❑ Data Migrator コンソールの GDI リークの問題が修正されました。(02048874)

- ❑ Data Migrator のセッションが、散発的に中断される問題が修正されました。(02048874)
- ❑ [キーフィールドの継承元] 設定の値が変更された際に、[ロードオプション] タブの [読み込み] および [キャンセル] ボタンが非表示になる問題が修正されました。(02046395)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の JOIN エディタで、編集リンクが選択され、DBA が使用されている場合に、FOC14010 および FOC205 エラーが発生しなくなりました。(02030901)
- ❑ 外部プロバイダによって作成された Parquet ファイルがサポートされるようになりました。(02062763)
- ❑ GIT アダプタに、ステージ、コミット、およびプッシュ操作に対して複数の個別のファイルを選択する機能が追加されました。(02042128)
- ❑ SUM ステートメントの異なるセグメントフィールドで中間合計 SUM を使用した場合に、0 NUMBER OF RECORDS IN TABLE エラーメッセージが表示されなくなりました。(02034238)
- ❑ MSODBC シノニムでのデータプロファイル → 統計コマンドの使用で、オーバフローエラーメッセージが表示されなくなりました。(02033689)
- ❑ Calabrio RESTful API アダプタは、WebFOCUS REST アダプタと互換性があります。(02031188)
- ❑ 名前に引用符を含む ("TEST"TABLE") Db2 テーブルを作成した場合に、WebFOCUS から "(FOC1500) : [42603] String constant beginning " T1 FOR" not delimited." エラーメッセージが返されなくなりました。(02032153)
- ❑ CVE-2021-45046 - Log4j RCE 0-day mitigation の問題に対応するため、Apache Log4j2 Zero-Day をバージョン 2.16.0 にアップグレードしました。(02070506、02070556、02070573、02070593、02070668、02070380、02070828、02071227、02070383)
- ❑ 「新しいパスワードが一致しません」 および 「ユーザ ID またはパスワードが無効です」 のメッセージが、カスタムログインページで重なり合って表示されなくなりました。(02041301)
- ❑ ソース管理のコミットとプッシュ操作では、不正な SCM 認証情報エラーが自動的に返されません。(02065958)
- ❑ 1 つの Email アドレスでエラーが発生した場合、すべてのリストメンバーに対する Email レポート配信が失敗する問題が修正されました。(02051278)

- ❑ [リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] オプションを使用する ReportCaster の Email 配信スケジュールで、(FOC295) A VALUE IS MISSING FOR: &FOCURL エラーメッセージが発生しなくなりました。(02037205)
- ❑ FIND 句を使用したパラメータを含むプロシジャで、ユーザが配信スケジュールを保存できない問題が修正されました。(02032979)
- ❑ ジョブ通知プラグインを使用する場合、ワーカロード分散により、特定のスケジュールに対して複数のジョブ ID がトリガされる問題が修正されました。(02033880)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER の [新規ページの作成] ページで表示した場合、複数のフィルタ値を含むグラフと、検索および選択コントロールのオプションでページ見出しが表示できなくなり、フィルタダイアログボックスでグラフ表示が隠れる問題が修正されました。(02064248)
- ❑ [ワークスペース] のリストビューで、[カラムの選択] オプション下に [名前] 列が表示されない問題が修正されました。(02072797)
- ❑ パネル幅が自動または最大に設定されている場合、ポータルレベル 2 ナビゲーション/サイドバーナビゲーションの展開アイコンが表示されません。(02032434)
- ❑ レポートのオートプロンプトページが非常に高さのあるフレーム内に読み込まれると、コントロールのいずれかにページング機能の使用が可能な値が含まれる場合に、そのコントロールのポップアップが画面上ですぐに確認できる位置に表示されない問題が修正されました。(02043006)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER では、ユーザが選択したサブフォルダで使用可能なデータソースの表示が制限されるようになりました。(02057415)
- ❑ ようこそページのプラス (+) メニューがカスタマイズ可能になりました。(02052105)
- ❑ アプリケーション開発者は、ポータル内で使用可能なメニューオプションのリストをカスタマイズできます。(02033332、02030282)
- ❑ プロシジャまたはフォルダのタイトルの名前変更後に、[ワークスペース] エリアのリストビューに列が表示されない問題が修正されました。(02030067)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER でレポートに条件付きスタイルを適用すると、ドリルダウンが設定されません。(02057211)
- ❑ Ubuntu 20.04 および Kernel 5.11 がインストールされている場合、DSML のインストールが失敗する問題が修正されました。(02054089、02056042、02063756)
- ❑ WebFOCUS Reporting Server のインストールウィザードのパラメータの確認ページで [戻る] ボタンを押しても、前のページに戻らない問題が修正されました。(02045740)

- ❑ バージョン 8.2.07.28 へのアップグレード後、ドリルダウングラフのタブおよびアコーディオンコンテナは、ドリルリフレッシュの実行後もフォーカスを維持します。(02058142)
- ❑ ブックマークの構成で定義されたフィルタ選択が、複数のポータルページに適用されない問題が修正されました。(02033688)
- ❑ 保存済みのブックマーク構成に含まれるフィルタが 1 つのコンテナで再ロードされると、これらのフィルタが、開いている別のコンテナに複製される問題が修正されました。(02067596)
- ❑ 同じ変数名を含む 2 つのページを格納するポータルで、パラメータプロンプトが失敗する問題が修正されました。(02053254、02067587、02058721)
- ❑ ユーザは、2 バイト文字セットデータを含むビジュアライゼーションを実行および保存できます。(02054287)
- ❑ ドロップダウンでは、集約ページのフィルタ連鎖で日付を選択後に値が読み込まれません。(02053584)
- ❑ [グローバル名] プロパティは、ポータル内のページ間で機能しません。(02034144)
- ❑ 外部プロシジャの値が入力されたコントロールのエントリを並べ替えることができません。(02052827、02030285、02029400)
- ❑ focexec に小文字と大文字の両方の名前が含まれている場合、エクスポートは正しく実行されません。(02034720)
- ❑ リストボックスコントロールを使用して HTML ファイルを実行すると、「デフォルト値が存在しない未解決のパラメータがあります」という警告メッセージが表示されます。(02074829)
- ❑ ポータルが Chrome で読み込まれず、「Reference Error loading HTML page」というエラーメッセージが表示されます。(02060953)
- ❑ WebFOCUS App Studio では、カレンダーコントロールのクリア時に例外が発生します。(02074356)
- ❑ WebFOCUS App Studio の編集ボックスが、リセットボタンを押してもリセットされません。(02066344)
- ❑ ダブルリストコントロールでフィールドをダブルクリックしてボックスに移動しても、フィールドの選択が保持されます。(02071905、02072762)
- ❑ WebFOCUS App Studio のカレンダーコントロールに特定の値を入力できません。(02063335)

- ❑ WebFOCUS App Studio で連鎖を実行すると、データの取得に長い時間を要します。(02063103)
- ❑ WebFOCUS App Studio の連鎖コンポーザリストボックスは、Apple 環境では動作しません。(02066106)
- ❑ -REMOTE BEGIN でレポートを実行すると、WebFOCUS App Studio で開いた際に、レポートから FOC205 エラーが返されます。(02040374)
- ❑ WebFOCUS App Studio では、ドロップダウンリストの幅を変更後、スクロールするとリストの位置が変わります。(02066946)
- ❑ 以前のバージョンから WebFOCUS App Studio バージョン 8.2.07.28 へのアップグレードで、レスポンスページに広いブランク領域が表示されます。(02065613)
- ❑ BI Portal で HTML フィルタページを使用すると、「Uncaught TypeError: Cannot read properties of undefined (reading 'top')」というエラーが発生します。(02060372)
- ❑ WebFOCUS App Studio のアップグレード後、HTML ページが表示されず、スクリプトエラーが発生します。(02057673)
- ❑ WebFOCUS App Studio では、アンパサンド (&) が値に含まれる場合、複数選択のドロップダウンパラメータが正しく表示されません。(02062039)
- ❑ WebFOCUS App Studio でページ/検索コントロールの幅を変更できません。(02059220)
- ❑ ポップアップスタイルコントロールを拡大後、コントロールの幅が WebFOCUS App Studio のドロップダウンの幅と同一になりません。(02033681)
- ❑ WebFOCUS App Studio で、フォントのスタイル設定がカレンダーコントロールに適用されません。(02059168)
- ❑ WebFOCUS App Studio で、リセット後にポップアップスタイルコントロールとページ/検索コントロール範囲が表示されません。(02055273)
- ❑ WebFOCUS App Studio でダブルリストコントロールを使用する場合、ポップアップスタイルとリセットボタンが重なり合って表示されます。(02013223、02013224、02029323)
- ❑ WebFOCUS App Studio では、他の focexec ファイルを呼び出す HTML ページからパラメータが正しく渡されません。(02057122、02056364)
- ❑ WebFOCUS App Studio を最新のブラウザで表示した場合、GroupBox コンポーネントが異なる表示になります。(02056682)

- ❑ WebFOCUS App Studio で、保存済みパラメータを同一名で保存する際に、上書きを求めるプロンプトメッセージが表示されません。(02052989)
- ❑ WebFOCUS App Studio で、初回実行時に、HTML チェックボックスに予期される値が表示されます。(02054893)
- ❑ HTML ページに WebFOCUS App Studio のマップが表示されている場合に、[ロード画面] が引き続き表示されます。(02051784)
- ❑ WebFOCUS App Studio でコントロールが連鎖されている場合、ページ/検索コントロールには正しくない範囲が表示されます。(02054085、02060168)
- ❑ ユーザは、WebFOCUS App Studio で、コピーしたパネルにコントロールを追加することができません。(02047403)
- ❑ WebFOCUS App Studio は、カスタム CSS を含むプロシージャのロード時にフリーズします。(02045089)
- ❑ WebFOCUS App Studio でのマップの選択に基づくリクエストの更新では、複数のパラメータが取得されません。(02054164、02067477)
- ❑ WebFOCUS App Studio では、[すべてリフレッシュ] により外部 CSS プロパティが削除されます。(02043478)
- ❑ WebFOCUS App Studio で、HTML ページの言語を変更できません。(02039171)
- ❑ WebFOCUS App Studio のページ/検索コントロールで、リセット後に検索入力値が削除されません。(02036115)
- ❑ WebFOCUS App Studio で複数選択に設定したドロップダウンコントロールで、選択した値の代わりに [選択してください] が選択されます。(02031836)
- ❑ 一時項目 (DEFINE) が、focexec の保存時に移動され、保存済みの Focexec を編集する際に「フィールドが見つかりません」というエラーが発生します。(02078815)
- ❑ InfoAssist で、既存のレポートを開く際に、一部のフィールドを見つけることができません。(02067039)
- ❑ InfoAssist で [値 1 から値 2] フィルタを作成する場合、日付関数オプションを選択できません。(02061920、02054380)
- ❑ 2 部構成のファイル名設定が無効になっている場合、一時項目 (DEFINE) がクエリパネルに表示されません。(02055743、02053855)

- ❑ InfoAssist の JOIN フィールドが、[データ] ウィンドウに表示されません。(02050826、02052882)
- ❑ HOLD ファイルを作成してプロシジャを編集すると、ページが応答しなくなったり、エラーが発生したりします。(02037161)
- ❑ 2 部構成のファイル名設定が無効になっている場合、JOIN の後にフィールドがクエリパネルに表示されません。(02044569、02066022)
- ❑ 2 つの一時項目 (DEFINE) に同一名が含まれる場合、InfoAssist が停止します。(02045005)
- ❑ InfoAssist は、結合された 2 つの HOLD ファイルを編集して一時項目 (COMPUTE) を追加すると停止します。(02044094)
- ❑ InfoAssist で、ROWLIMIT を含むカスタムスタイルシートを挿入すると、「invalid or unknown style id: ROWLIMIT」というエラーが発生します。(02041098)
- ❑ HOLD ファイルから PNG または HTML フォーマットで作成した場合、グラフを編集できません。(02034803)
- ❑ InfoAssist で、定数値として変数を渡すドリルダウンを作成する場合、ドリルダウンターゲットが、保存時と再開時にドリルダウンダイアログボックスのフィールドに変更されます。(02034977、02089101)
- ❑ 2 つの HOLD ファイルを作成し、ドキュメントを編集すると、InfoAssist が停止します。(02034676)
- ❑ ドキュメントから HOLD ファイルを削除すると、レイアウトから標準レポート表示に戻ります。(02033503)
- ❑ InfoAssist で 1 つ目のフィルタが [パラメータ] に設定されると、欠落している演算子やその他の演算子はリストフィルタに含まれません。(02030374)
- ❑ Db2 リポジトリのファイル名に特殊文字が存在する場合、内部例外エラーが発生します。(02031088)
- ❑ InfoAssist のフィルタで、定数値を大文字の ON に設定するとエラーが発生します。(02031657)
- ❑ SQL ステートメントを使用して Developer Workbench で作成したレポートを実行したり、再度開いたりする場合にエラーが発生します。(02029713、02034098)
- ❑ HYYMDS 日付定数フィルタに値を入力すると、エラーが発生します。(02030590、02042404、02058512、02054744)

- ❑ HOLD ファイルの名前を [マスターファイルの説明] と同一にすると、HOLD コンテンツが表示されません。(02030203)
- ❑ [定数] フィルタタイプでは、[値の取得] からすべての値が表示されません。(02028965、02031506)
- ❑ バージョン 8.2.07.28.05 へのアップグレード後、リストビューにファイル名を表示するオプションがありません。(02072797、02074284)
- ❑ focexec のメニューを右クリックすると、WebFOCUS ユーザインターフェースに 3 つの項目しか表示されません。(02068151)
- ❑ [お気に入り] からレポートを削除しても削除されず、2 度目に削除するとエラーが発生します。(02069614)
- ❑ ユーザがリストビューを選択した場合、[最近の更新] または [お気に入り] ビューで [レポートタイトル] の一部が表示されません。(02044604)
- ❑ ユーザに対して特定の権限を選択すると、グラフのアクションバーが表示されます。(02035083)
- ❑ Advanced Users が、Client のメニューから WebFOCUS サーバにアクセスできません。(02034377)
- ❑ ポータルの長いワークスペースツリーで、矢印キーを使用して最上部または最下部にスクロールできません。(02030724)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER 権限を持たないユーザが、[データの取得] にアクセスできます。(02030556)
- ❑ 重複ファイルの XHR レスポンスには、ファイルのフルパスが含まれません。(02029995)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER で、ESRI マップのサイズを変更するとレイヤが削除されます。(02061367)
- ❑ ESRI マップコントロールを翻訳できません。(02049366)
- ❑ WebFOCUS をバージョン 8.2.07.28.06 にアップグレード後、他のユーザの複数の [マイコンテンツ] フォルダが表示されます。(02075698、02076109、02075933、02076190、02076226、02076762、02076822、02076542、02076858、02077109、02077112、02077313、02077418、02077423、02077546、02077747、02077671、02076161、02081503)
- ❑ インドネシア語 (IBIWF_language) が、WebFOCUS Reporting Server に設定されていません。(02059063)

- ❑ /CreateLangRes.sh ユーティリティを使用して新しい言語を追加すると、エラーが発生します。(02057886)
- ❑ バージョン 8.2.07 から oracle リポジトリの 8.2.07 への db_replicate の実行でエラーが発生します。(02048852、02055124)
- ❑ UOA_CACHECOMS は貴重なリソースを使用して 1 日に何回も実行されます。(02034347)
- ❑ WebFOCUS DESIGNER ページに追加すると、WHERE フィルタの降順は無視されます。(02050830、02054389、02064690)
- ❑ ROWLIMIT コマンドを含むカスタムスタイルシートを挿入すると、「unknown error message(IA_210805_223710-1)」というエラーが発生します。(02041098)
- ❑ WRAP と SQUEEZE が無効の場合、正しい表示ができません。(02040073)
- ❑ エスケープ文字が、単一引用符を含む変数のレポート見出しに表示されます。(02051954)
- ❑ スタイルシートで WHEN が使用されると、Active Report でエージェントクラッシュが発生します。(02030962)
- ❑ [SQL トレース付き実行] がレガシーホームページでのみ表示されます。(02078392)
- ❑ ページ/検索コントロールで検索ボタンをクリックすると、[次へ] と [最後] のアイコンが表示されません。
- ❑ App Studio で、プロシジャに XLSX フォーマットで -HTMLFORM が使用される場合、マルチバイト文字が文字化けします。(02034263)
- ❑ 2 つの ACROSS COMPUTE フィールドのいずれかでタイトルを変更すると、レポートキャンバス上で両方のフィールドが影響を受けます。(02030854)
- ❑ プレミアム ESRI 人口統計レイヤが MLM ビューアに追加されました。(02030867)
- ❑ InfoAssist のビジュアルライゼーションに関連して、レポートの作成ボタンが 1 つ余分にリボンに表示されます。(02085761)
- ❑ バージョン 8.2.07.28 へのアップグレード後、App Studio のリストボックスが複数選択として機能します。(02079334、02081371)
- ❑ Web ビューアの使用時に、ブラウザの幅を狭くするとドリルダウンメニューが正しく整列されません。(02030431)

アップグレードに関する注意事項

- ❑ バージョン 9.0.0 では、WebFOCUS は、HTTP Get メッセージヘッダに割り当てられた URL に対して、より厳密な検証基準を課しています。その結果、これらの基準を満たさないログインリクエストは有効なリクエストとして受容されなくなり、WebFOCUS でエラーメッセージが生成されます。

外部プロキシサーバ経由でログインリクエストを送信する方法を引き続き使用するには、WebFOCUS をホストする Application Server を再構成して、ログインリクエスト発信元ホストの URL をプロキシサーバの URL に置き換える代わりに、そのメッセージの HTTP ヘッダに残るようにする必要があります。

必要な構成の更新は、WebFOCUS のインストールで使用されている Application Server によって異なります。Application Server とプロキシサーバに必要な構成変更についての詳細は、ベンダーに問い合わせてください。

- ❑ バージョン 9.0.0 以降、TIBCO WebFOCUS のシステムファイル構成に `ibi_html` ディレクトリ (`drive:¥ibi¥WebFOCUS¥release¥WebFOCUS`) は含まれません (ここで、`release` はインストールされた WebFOCUS のバージョン番号)。

`ibi_html` ディレクトリにカスタムスタイルシートファイルまたはその他ファイルが格納されている場合は、WebFOCUS バージョン 9.0.0 以降のインストールまたはアップグレード前に、これらのファイルをこのディレクトリから WebFOCUS リポジトリにアップロードする必要があります。この予防措置を実行しない場合、`ibi_html` ディレクトリに格納されたカスタムファイルが失われます。

さらに、WebFOCUS リポジトリ内のこれらのファイルの新しい場所を正しく識別するため、既存のプロシジャでこれらのカスタマイズされたスタイルシートファイルへのリンクを更新する必要があります。

ファイルを WebFOCUS リポジトリにアップロードする方法についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS 利用ガイド』の「ファイルのアップロード」トピックを参照してください。

- ❑ WebFOCUS バージョン 9.0.0 では、[デフォルトオートプロンプト] 設定に割り当てられたデフォルト値が、[レスポンス] から [デザイナ] に変更されました。
- ❑ この設定で別の値が選択済みの場合、この値はアップグレード後も同一に保持され、変更する必要はありません。

- ❑ [レスポンス] のデフォルト値が受容済みの場合は、アップグレード後に [デザイン] に変更されます。デフォルトオートプロンプトテンプレートとして [レスポンス] テンプレートを引き続き使用する必要がある場合は、アップグレード後に再度 [レスポンス] を選択し、デフォルトオートプロンプトテンプレートとしてこれを設定し直す必要があります。
 - ❑ バージョン 8.2.06 または 8.2.07 から App Studio バージョン 9.0.0 へのアップグレードはサポートされていません。これらのアップグレードは、今後のリリースでサポートされる予定です。
 - ❑ WebFOCUS または WebFOCUS 統合インストールのアップグレード後、[ibi-protected] フォルダは [backup_files] ディレクトリから復元されません。[ibi-protected] フォルダは非常に大きい場合があり、コピー段階でインストールプログラムが応答を停止する可能性があるため、このフォルダは復元されないよう設計されています。必要に応じて、[ibi-protected] ディレクトリを [backup_files] フォルダから手動で復元できます。
- ディレクトリのコピー後に、次の手順を実行します。
- ❑ **Windows の場合** `drive:¥ibi¥install_directory¥features¥search¥solr¥ibi-protected¥conf` から `managed_schema` ファイルを `drive:¥ibi¥install_directory¥Solr¥solr¥server¥solr¥ibi-protected¥conf` にコピーします。この場合、`install_directory` は、WebFOCUS のインストール先のディレクトリです。
 - ❑ **UNIX の場合** `../ibi/install_directory/features/search/solr/ibi-protected/conf` から `managed_schema` ファイルを `../ibi/install_directory/Solr/solr/server/solr/ibi-protected/conf` にコピーします。この場合、`install_directory` は、WebFOCUS のインストール先のディレクトリです。
 - ❑ **統合インストールの場合** `drive:¥ibi¥install_directory¥WebFOCUS¥features¥search¥solr¥ibi-protected¥conf` から `managed_schema` ファイルを `drive:¥ibi¥install_directory¥Solr¥solr¥server¥solr¥ibi-protected¥conf` にコピーします。この場合、`install_directory` は、WebFOCUS のインストール先のディレクトリです。
 - ❑ バージョン 9.0.0 では、WebFOCUS DESIGNER でのグラフおよびレポート作成で、[コンテナの追加] オプションが削除されました。グラフまたはレポートをページに変換する場合は、[ページに変換] オプションのみが使用できます。一方、ページキャンバスを使用する場合は、[コンテナの追加] オプションが引き続き使用できます。

グラフまたはレポートをページに変換し、2 つ目の項目を追加するには、[ページに変換] をクリックし、次に [コンテナの追加] をクリックして [コンテナ] タブから別のコンテナを追加するか、フィールドリストからページのブランク領域にフィールドをドラッグします。

- ❑ バージョン 9.0.0 では、App Studio は新規インストールのみをサポートしています。以前のバージョンからのアップグレードはサポートされていません。そのため、App Studio の設定は、バージョン 9.0.0 のインストールで再適用する必要があります。バージョン 9.0.1 ではアップグレードがサポートされる予定です。

ESRI 人口統計レイヤの廃止と追加

2021 年 12 月時点で、ESRI は、デフォルト設定の WebFOCUS インストールの一部として構成される特定の人口統計マップレイヤのサポートを終了しました。今回廃止された人口統計レイヤは次のとおりです。

- ❑ アメリカ合衆国年齢中央値 2017
- ❑ アメリカ合衆国人口密度 2017
- ❑ アメリカ合衆国人口増加 2017-2022
- ❑ アメリカ合衆国失業率 2017

今回追加された人口統計レイヤは次のとおりです。

- ❑ ACS 世帯サイズ変数 - 境界
- ❑ ACS 住戸占有率変数 - 境界
- ❑ ACS インターネット接続変数
- ❑ ACS 年齢変数別 労働力人口
- ❑ ACS 年齢変数中央値
- ❑ ACS 世帯収入中央値変数 - 境界
- ❑ ACS 車両保有台数変数
- ❑ アメリカ合衆国タペストリセグメンテーション 2021
- ❑ 2021 アメリカ合衆国年齢中央値
- ❑ 2021 アメリカ合衆国住宅価格中央値
- ❑ 2021 アメリカ合衆国世帯収入中央値
- ❑ 2021 アメリカ合衆国人口密度
- ❑ 2021 アメリカ合衆国失業率

❑ 2021-2026 アメリカ合衆国人口増加

廃止されたレイヤについての詳細は、「<https://www.esri.com/arcgis-blog/products/esri-demographics/announcements/u-s-and-canada-2017-demographic-maps-to-be-retired/>」を参照してください。

既知の問題

- ❑ WebFOCUS で、すべての未分類レポートに対するマーキングソリューション (識別表示) が必要です。(02030206)
- ❑ NFR ポータルのサブフォルダが、ポータル実行時に表示されません。(02051677)
- ❑ WebFOCUS バージョン 9.0.0 USS Reporting Server の z/OS インストールは、EDAHOME/EDACONF のディレクトリ名の設定に使用される値が無効な名前を生成するため失敗します。この問題を回避するため、ireadme.txt ファイルに記載されている手順に、バージョン番号を変更する手順を追加します。追加する手順は、以下の手順 1 と 2 の間です。

1. HOME.DATA をダウンロードします。

HOME.DATA (IWAYREL) を編集し、2 行目を以下のように更新します。

```
uss,9.,/pgm/edaport4/M729000D/tape
```

次のように変更します。

```
uss,90,/pgm/edaport4/M729000D/tape
```

2. HOME.DATA(ISETUP) から ISETUP インストールを開始します。

ブラウザ情報

このバージョンは、Google Chrome バージョン 92、Firefox バージョン 90、Microsoft Edge Chromium バージョン 92 (WebFOCUS のみ)、Microsoft Edge バージョン 44 (WebFOCUS のみ) でテスト済みかつ動作保証されています。Internet Explorer 互換モードはサポートされません。

リリース情報

ibi™ WebFOCUS® バージョン 9.0.0 の関連情報は、各トピックから参照できます。

トピックス

- ❑ [ブラウザ情報](#)
- ❑ [ibi WebFOCUS のアクセシビリティ準拠](#)
- ❑ [ibi™ WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム](#)
- ❑ [ibi WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition \(Java SE\) のサポート](#)
- ❑ [サポート対象の Web サーバおよび Application Server](#)
- ❑ [WebFOCUS Client リポジトリでサポート対象の RDBMS およびドライバ](#)
- ❑ [ローカリゼーション \(NLV\) および NLS の制限事項](#)
- ❑ [ibi WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート](#)

ブラウザ情報

ここでは、WebFOCUS の各バージョンで使用可能な Web ブラウザについて説明します。

- ❑ 弊社では、ブラウザベンダーのサポートポリシーを評価し、最新バージョンが使用可能になり次第、随時新しいブラウザバージョンを動作保証します。
- ❑ 以下のブラウザベンダー使用要件を参照して、最新の Web ベース機能を提供する Web 標準がサポートされ、セキュリティの保証されたブラウザを使用することをお勧めします。

サポート対象の Web ブラウザ

バージョン	Google Chrome	Firefox	Microsoft Edge (WebFOCUS のみ)
9.0.5	バージョン 117	バージョン 117	バージョン 117
9.0.4	バージョン 108	バージョン 107	バージョン 108
9.0.3	バージョン 104	バージョン 103	バージョン 104

バージョン	Google Chrome	Firefox	Microsoft Edge (WebFOCUS のみ)
9.0.2	バージョン 102	バージョン 100	バージョン 102
9.0.1	バージョン 99	バージョン 98	バージョン 99
9.0.0	バージョン 98	バージョン 96	バージョン 98
8.2.07.27	バージョン 92	バージョン 90	バージョン 92 (WebFOCUS)
8.2.07.27	バージョン 89	バージョン 86	バージョン 89 (WebFOCUS)
8.2.07.26	バージョン 88	バージョン 85	バージョン 87 (WebFOCUS)
8.2.07.25	バージョン 87	バージョン 84	バージョン 87 (WebFOCUS)
8.2.07.24	バージョン 87	バージョン 83	バージョン 87 (WebFOCUS)
8.2.07.23	バージョン 87	バージョン 83	バージョン 86 (WebFOCUS)
8.2.07.22	バージョン 87	バージョン 82	バージョン 86 (WebFOCUS)
8.2.07.21、 8.2.07.20、 8.2.07.19	バージョン 86	バージョン 81	バージョン 85 (WebFOCUS)
8.2.07.18、 8.2.07.17	バージョン 85	バージョン 80	バージョン 85 (WebFOCUS)
8.2.07.15、 8.2.07.16	バージョン 84	バージョン 79	バージョン 83 (WebFOCUS)

バージョン	Google Chrome	Firefox	Microsoft Edge (WebFOCUS のみ)
8.2.07.14、 8.2.07.13、 8.2.07.12	バージョン 83	バージョン 77	バージョン 83 (WebFOCUS)
8.2.07.11	バージョン 83	バージョン 76	バージョン 81 (WebFOCUS)
8.2.07.10、 8.2.07.09	バージョン 81	バージョン 75	バージョン 81 (WebFOCUS)
8.2.07.08	バージョン 81	バージョン 75	バージョン 80 (WebFOCUS)
8.2.07.07	バージョン 80	バージョン 74	バージョン 80 (WebFOCUS)
8.2.07.06	バージョン 80	バージョン 73	バージョン 80 (WebFOCUS)
8.2.07.05	バージョン 80	バージョン 73	バージョン 44 (WebFOCUS)
8.2.07.04、 8.2.07.03、 8.2.07.02	バージョン 79	バージョン 73	バージョン 44 (WebFOCUS)
8.2.07.01	バージョン 78	バージョン 70	バージョン 44 (WebFOCUS)
8.2.07	バージョン 77	バージョン 69	バージョン 44 (WebFOCUS)

❑ バージョン 8.2.07.27.0 以降、ibi™ WebFOCUS の新しいリリースでは、Microsoft Internet Explorer 11 が動作保証済みブラウザとしてサポートされません。この変更は、2021 年 4 月 1 日より有効です。

❑ Internet Explorer 互換モードはサポートされません。

- ❑ Firefox ブラウザバージョンサポートについての詳細は、Mozilla から公開されている次の Web サイトを参照してください。 https://wiki.mozilla.org/Release_Management/ESR_Landing_Process
- ❑ WebFOCUS で作成した単純な HTML レポートは、任意のブラウザで表示することができます。
- ❑ 一部のブラウザバージョンで使用可能な組み込み PDF ビューアを使用する際に、ドリルダウンリンクが機能しません。ブラウザの構成情報を確認し、関連するコンテンツタイプのアプリケーションオプション設定を変更することで、ブラウザで自動的に Adobe Reader が起動するよう調整します。
- ❑ Acrobat Reader DC は動作保証されています。Adobe XI および Above X はサポートされています。
- ❑ 特定の状況下では、Microsoft Internet Explorer でページを表示する際に、Web ページで指定されたモードと異なるドキュメントモードでページが強制的に表示される場合があります。詳細は、「[Internet Explorer Browser Document Compatibility](#)」を参照してください。
- ❑ クライアントのブラウザに基づいてイメージ埋め込み機能を使用することにより、HTML レポート、DHTML レポート、DHTML 複合レポートでのイメージおよびグラフの表示がサポートされます。Microsoft Internet Explorer ブラウザで生成される出力、またはブラウザが不明な状況 (例、ReportCaster から配信されるレポート) では、Web アーカイブファイル (.mnt) を作成することでイメージが組み込まれます。その他すべてのブラウザでは、イメージは、生成される .html ファイル内で base64 エンコードされます。
- ❑ Windows 2012 R2 オペレーティングシステムで Microsoft Internet Explorer 11 を使用し、InfoAssist で作成したレポートやグラフなどのオブジェクトを実行すると、そのオブジェクトがターゲット先の特定のフレームで開く代わりに、Microsoft Internet Explorer 11 の新しいウィンドウで開きます。たとえば、InfoAssist で [新規ウィンドウ] を選択すると、新しいブラウザウィンドウが開き、実行中イメージが表示された後、そのページが出力結果で置き換えられます。Microsoft Internet Explorer 11 ではそのウィンドウを置き換えることができないため、代わりに新しいウィンドウが開きます。このブラウザ制限は、[管理者](#)が修正することができます。
- ❑ 特定のブラウザでは、独自の最大バイト数をツールヒントのテキストに適用するため、長いツールヒントは末尾が切り取られて表示される場合があります。たとえば、Microsoft Internet Explorer では、この最大バイト数は 512 バイトですが、Google Chrome では 1024 バイトです。

サポート対象のモバイルブラウザ

WebFOCUS バージョン	iOS バージョン	ブラウザ	WebFOCUS Mobile App バージョン
バージョン 9.0.0 以降	iOS バージョン 15	Safari	バージョン 4.0.4
バージョン 9.0.0 以降	iOS バージョン 15	Chrome	バージョン 4.0.4
バージョン 9.0.0 以降	iOS バージョン 14	Safari	バージョン 4.0.4
バージョン 9.0.0 以降	iOS バージョン 14	Chrome	バージョン 4.0.4
バージョン 9.0.0 以降	Android バージョン 11	Chrome	バージョン 4.0.4
バージョン 9.0.0 以降	Android バージョン 10	Chrome	バージョン 4.0.4

ibi WebFOCUS のアクセシビリティ準拠

ibi™ は、障害あるユーザを含むすべてのユーザにアクセス可能で使いやすく、質の高い製品とサービスを提供します。

アクセシビリティのサポート基準

ibi™ は、次の基準に基づき WebFOCUS のアクセシビリティを確保します。

弊社のアジャイル開発プロセスは、[WCAG 2.1](#) レベル AA、[改定セクション 508](#)、および [欧州規格 EN 301 549](#) の標準およびガイドラインに沿ったアクセシビリティ評価を、設計、開発、テストのすべての段階で取り入れています。コーディングは、HTML、CSS、WAI-ARIA、JavaScript で W3C 標準に準拠しています。

ibi™ は、アクセシビリティ標準およびガイドラインに準拠したアプリケーションの作成が可能なソフトウェアツールを提供することで、顧客のアクセシビリティ目標達成に貢献します。各アプリケーションの実際のアクセシビリティ準拠は、ibi™ ツールの適切な使用、および弊社ソフトウェアと相互運用する他社製ハードウェアおよびソフトウェアのアクセシビリティ準拠によって異なります。

サービスについて、ibi™ は、顧客と協調し、サービス契約に関するアクセシビリティ要件に取り組んでいます。ibi™ は、必要なアクセシビリティ標準およびガイドラインに準拠する適切な作業指示書で、顧客に対してアクセシビリティ要件を求めます。ibi™ は、顧客の要件に特化した COTS 製品のアクセシビリティ機能を提示し、提示された機能を使用して開発を進める前に顧客の承認を取得します。

適合ステータス

WebFOCUS バージョン 8.2.07.26 以降は、次のアクセシビリティ標準およびガイドラインに部分的に適合しています。部分的適合とは、コンテンツの一部がアクセシビリティ標準に完全に適合していないことを示します。

標準およびガイドライン	レポート内に記載
Web Content Accessibility Guidelines 2.0	レベル A レベル AA
Web Content Accessibility Guidelines 2.1	レベル A レベル AA
Revised Section 508 standards published 01/18/2017 and corrected 01/22/2018	
EN 301 549 Accessibility requirements suitable for publish procurement of ICT products and services in Europe - V3.1.1. (2019-11)	

アクセシビリティ機能の範囲

WebFOCUS バージョン 8.2.07.26 以降では、DESIGNER ページおよび WebFOCUS アクセシブルレポートを含む、アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS の 2 レベルトップナビゲーション V5 ポータルを作成、公開するためのツールとガイダンスを設計者に提供し、エンドユーザによる独自の adhoc クエリおよびレポート作成の実行を可能にします。アクセシビリティ機能には、コンテンツ作成 (開発) および管理インターフェースは含まれません。

アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS レポートには、次のフォーマットがあります。

- ☐ Analytic Document (Active テクノロジ) - AHTML

- ❑ Excel - XLSX
- ❑ PowerPoint - PPTX
- ❑ HTML - 「[Technical Memo 4505](#) - WebFOCUS HTML レポートのアクセシビリティサポート」を参照

アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS レポートは、Web ページまたはアプリケーションから配信、実行できます。Web ページまたはアプリケーションのアクセシビリティ準拠については、設計者が責任を負います。

WebFOCUS バージョン 8.2.07.12 以前の 8.2.07 リリースでは、次の WebFOCUS アクセシビリティ準拠レポートフォーマットがサポートされます。

- ❑ HTML - 「[Technical Memo 4505](#) - WebFOCUS HTML レポートのアクセシビリティサポート」を参照

ブラウザ互換性および支援テクノロジー

テストは、さまざまなオペレーティングシステム、ブラウザ、テスト自動化ツール、スクリーンリーダーを使用して実行されました (例、Windows 10 オペレーティングシステム、Google Chrome ブラウザ、NVDA または JAWS 2020 スクリーンリーダー)。

Google Chrome、Firefox、Microsoft Edge、Microsoft Internet Explorer ブラウザについては、ユーザのカスタマイズ、支援テクノロジーおよび他社製拡張機能との統合によりサポートレベルが異なります。

JAWS ブラウザ要件についての詳細は、[Freedom Scientific](#) の Web サイトを参照してください。

テクノロジー仕様

WebFOCUS のアクセシビリティは、次の技術に依存し、Web ブラウザおよび支援テクノロジー、またはユーザの PC にインストールされたプラグインとの特定の組み合わせにより機能します。

- ❑ HTML
- ❑ WAI-ARIA
- ❑ CSS
- ❑ JavaScript

上記のテクノロジーは、適用されるアクセシビリティ標準に準拠するために使用されます。

制限事項

WebFOCUS のアクセシビリティ機能を確実に利用できるような万全を期していますが、一部に制限事項があることも考えられます。アクセシビリティ機能の使用に問題がある場合は、技術サポートに問い合わせてください。また、追加機能に対するアクセシビリティ準拠のリクエストについても、技術サポートに問い合わせてください。

既知の制限事項

- ❑ **アクセシビリティ機能** 機能の範囲は、上記の「適合ステータス」に記載されているとおりです。
- ❑ **非テキストコンテンツ、代替テキスト** WebFOCUS 8.2.07 以降では、コンテンツ作成者に代替テキストを追加する方法を提供し、このコンテンツはスクリーンリーダーで読み取られます。ただし、説明的代替テキストの提供は、コンテンツ作成者に委ねられます。
- ❑ **感覚的情報 (ビジュアルイゼーション/グラフ)** アクセシビリティのベストプラクティス準拠は、コンテンツ作成者に委ねられますが、WebFOCUS 8.2.07 以降のリリースは、ビジュアルイゼーションおよびグラフでの感覚的情報の伝達について、強化された代替方法を提供します。
- ❑ **リフロー** データテーブルは、テーブルとして動作し、リフローされません。
- ❑ **見出しおよびラベル** WebFOCUS 8.2.07 以降では、適切な見出しおよびラベルを追加する方法をコンテンツ作成者に提供し、このコンテンツは、スクリーンリーダーで読み取られます。ただし、ベストプラクティスの導入によるアクセシビリティの維持は、コンテンツ作成者に委ねられます。
- ❑ **一部の言語** 言語は、メタレベルでドキュメントに適用されます。
- ❑ **機能的遂行基準 (言語障害、認知障害、学習障害)** WebFOCUS 8.2.07 以降のデータテーブルは複雑であり、拡張機能を提供します。対象ユーザの機能上の要件を特定し、WebFOCUS レポートプロシジャ作成時にこれらの考慮事項を適用することは、コンテンツ作成者の責任です。
- ❑ **利用可能な操作の全般 (情報) リスト** V5 ポータル、DESIGNER ページ、Analytic Document (AHTML) では、利用可能な操作は「Ctrl+Shift+F10」を押すとアクセスできます。
- ❑ **変更通知** オンラインヘルプの今後のリリースで改善される予定です。
- ❑ **製品マニュアル** [オンラインヘルプ] セクションのアクセシビリティは、今後のリリースで改善され、利用可能になります。現在のバージョンでは、次のような問題が発生する可能性があります。
 - ❑ 拡大表示での判読性の低下

- ❑ 左側ウィンドウから右側ウィンドウへの移動困難
- ❑ 印刷メニューのポップアップが、Esc キーの使用またはポインタの移動でも閉じることができない

ibi™ WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム

下表は、WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステムを示しています。

ベンダー (プロセッサ/アーキテクチャ)	オペレーティングシステムバージョン
Microsoft Windows 64 ビット	Windows Server 2019
	Oracle Java 8 をマシンにインストールする必要があります。詳細は、製品のインストールマニュアルを参照してください。
	Windows Server 2016、2012 R2、2012
	Windows 10 (開発環境のみに限定)
IBM (pSeries 64)	AIX 7.2、AIX 7.1
Oracle (Sparc 64-bit)	Oracle Solaris 11
	Oracle Solaris 10
Oracle (x86)	Oracle Solaris 11
	Oracle Solaris 10
Red Hat (x86_64)	Enterprise Linux 6.1 / Kernel 2.6.32 - glibc-2.6 以降
	Enterprise Linux Kernel-3.10.0-glibc-2.17 以降
Red Hat (IBM Power Systems)	Enterprise Linux 6.1 / Kernel 2.6.32 - glibc-2.6 以降
Hewlett Packard (Itanium IA64)	HP-UX 11i (11.31)

ibi WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート

ここでは、WebFOCUS および ReportCaster Web アプリケーションの展開先としてサポートされる各種 Java SE バージョンの WebFOCUS リリース情報について説明します。また、Java ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする前に、Web アプリケーションサーババージョンの Java バージョン要件を確認することも重要です。

注意事項

- ❑ Java SE の同一バージョンレベルでのメンテナンスアップデートもサポートされます。
- ❑ 新しい JDK バージョンと WebFOCUS の以前のバージョンとの使用はサポートされます。ただし、一部の問題を解決するために、新しいバージョンの WebFOCUS または JDK サービスパックへのアップグレードが必要になる場合があります。
- ❑ 新しい Java SE メジャーリリースのサポートには動作保証が必要なため、下表で明記されていない限り、現時点ではサポートされません。
- ❑ 「動作保証済み」と記述されている場合、指定された リリース QA (品質保証) の動作保証プロセスで、指定された Java バージョンがテストされたことを示します。

動作保証済みまたはサポート対象の Java バージョンで問題が発生した場合は、技術サポートに連絡してください。

WebFOCUS バージョン 8.2.07 以降では、WebFOCUS および ReportCaster Web アプリケーションの展開先 Application Server に適用される JVM バージョンの最低要件は、JVM バージョン 8 です。

Java SE バージョンの動作保証ステータス このバージョンでは、Oracle および OpenJDK の Java 8 および Java 11 バージョンが動作保証されています。

サポート対象の Web サーバおよび Application Server

ベンダーの Web サーバおよび Application Server	バージョン
Apache Software Foundation (Apache Tomcat®)	9
Apache Software Foundation (Apache HTTP)	2.4 2.2

ベンダーの Web サーバおよび Application Server	バージョン
IBM HTTP Server	8.5.5
IBM WebSphere	9
Microsoft (IIS)	10 以降
Oracle WebLogic	12c (12.2.2.1、12.1.3.0.0)
Red Hat (JBoss)	Enterprise Application Platform 7.1.3

WebFOCUS Client リポジトリでサポート対象の RDBMS およびドライバ

ベンダー (RDBMS)	バージョン	JDBC ドライバ
Apache Software Foundation (Apache HTTP)	10.9.1.0	derbyclient.jar

ベンダー (RDBMS)	バージョン	JDBC ドライバ
Microsoft (MS SQL Server)	2019	Microsoft JDBC Driver 8.4 for SQL Server mssql-jdbc-8.4.1.jre14.jar mssql-jdbc-8.4.1.jre11.jar mssql-jdbc-8.4.1.jre8.jar Microsoft JDBC Drive 8.2 for SQL Server mssql-jdbc-8.2.2.jre13.jar mssql-jdbc-8.2.2.jre11.jar mssql-jdbc-8.2.2.jre8.jar Microsoft JDBC Drive 7.4 for SQL Server mssql-jdbc-7.4.1.jre12.jar mssql-jdbc-7.4.1.jre11.jar mssql-jdbc-7.4.1.jre8.jar
	2017	mssql-jdbc-6.2.2.jre8.jar ダウンロードは、「 https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539 」から可能です。
	2016 2014 2012 2008	mssql-jdbc-6.2.2.jre8.jar ダウンロードは、「 https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539 」から可能です。 sqljdbc42.jar ダウンロードは、「 https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=54671 」から可能です。

ベンダー (RDBMS)	バージョン	JDBC ドライバ
IBM (Db2)	11.5	db2jcc4.jar
	10.5	
	9.7 FP4	
Oracle (Database)	19c	ojdbc8.jar
	18c	
	12c Release 2	
	12c Release 1	ojdbc7.jar
	11g Release 2	ojdbc6.jar
Oracle (MySQL)	8.0.x	mysql-connector- java-8.0.19.jar
	5.7.x	
	5.6.x	
Postgresql	13.6	postgresql-42.2.11.jar
	11.1	
	10.7	
	9.6.x	
	9.5.x	

ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項

ibi WebFOCUS および App Studio では、一部の選別された言語で国際言語サポートおよびローカライズ版サポートが提供されています。その他の言語に関しては、技術サポートに新機能リクエストを送信することができます。

国際言語サポート (NLS)

国際言語サポート (NLS) は、さまざまな国際言語の文字セットを表すコードページで格納されたデータの読み取りと変換に必要です。ibi[™] 独自の NLS API コードページアーキテクチャにより、アプリケーションクライアントとサーバコンポーネント間でデータがコード変換され、ソート処理、大文字小文字の変換、日付、通貨、数値の変換のすべてが管理されます。

ローカライズ版のサポート (NLV)

ローカライズ版は、ユーザインターフェース (例、メニュー、ユーティリティ) が特定の言語で表示されるソフトウェア製品です。ローカライズ版のインターフェースの配列は、すべての言語で共通です。ボタンやメニューの選択項目は、常に製品内の同一位置に表示され、ラベルのテキストのみが異なります。そのため、特定の言語で ibi[™] 製品を使い慣れたユーザは、その製品を別の言語でも簡単に操作することができます。

ローカライズ版では、完全な国際言語サポート (NLS) 機能が提供されます。サポートされている任意の言語のデータにアクセスし、すべての国際言語文字を処理、表示、印刷することができます。

ibi WebFOCUS および ibi WebFOCUS Reporting Server

WebFOCUS Reporting Server バージョンでは、データ処理で次のコードページがサポートされます。

ASCII プラットフォーム

137 - 英語 (米国)/西ヨーロッパ (Latin 1)	923 - Latin 9 (ISO 8859-15)
437 - 英語 (米国)	942 - 日本語 (shift-JIS)
813 - ギリシャ語 (ISO 8859-7)	946 - 中国語 (簡体字)
850 - 西ヨーロッパ言語	949 - 韓国語
852 - 中央ヨーロッパ言語	1089 - アラビア語 (ISO 8859-6)
857 - トルコ語	1250 - 中央ヨーロッパ言語 (Latin 2)
860 - ポルトガル語	1251 - キリル文字 (Windows)
862 - ヘブライ語	1252 - Windows (Latin 1)

863 - フランス語 (カナダ)	1253 - ギリシャ語 (Windows)
865 - 北欧ゲルマン系言語	1254 - トルコ語 (Windows)
866 - キリル文字 II	1255 - ヘブライ語 (Windows)
869 - ギリシャ語	1256 - アラビア語 (Windows)
912 - 中央ヨーロッパ言語 (ISO 8859-2)	1257 - バルト沿岸諸国言語 (Windows)
915 - キリル文字 (ISO 8859-5)	10942 - 日本語 (EUC)
916 - ヘブライ語 (ISO 8859-8)	10948 - 中国語 (繁体字)
920 - トルコ語 (ISO 8859-9)	65001 - Unicode (UTF-8)
921 - バルト語 (ISO 8859-13)	

言語

LANGUAGE パラメータは、国際言語サポート (NLS) の環境を指定します。このパラメータは、サーバのエラーメッセージに使用する言語を設定します。また、マスターファイルに別の言語の TITLE 属性が含まれている場合に、レポートタイトルに使用する言語をこのパラメータで設定することもできます。

Web コンソール、Data Migrator およびデータ管理コンソールでは、次の言語がサポートされます。

(* ローカライズ版)

- ☐ 英語 (米国)
- ☐ 英語 (オーストラリア)*
- ☐ アラビア語
- ☐ ポルトガル語 (ブラジル)
- ☐ 英語 (カナダ)*
- ☐ クロアチア語
- ☐ チェコ語

- ☐ デンマーク語
- ☐ オランダ語
- ☐ 英語
- ☐ エストニア語
- ☐ フィンランド語
- ☐ フランス語*
- ☐ ドイツ語*
- ☐ ギリシャ語
- ☐ ヘブライ語
- ☐ ハンガリー語
- ☐ イタリア語
- ☐ 日本語*
- ☐ 韓国語
- ☐ ラトビア語
- ☐ リトアニア語
- ☐ ノルウェー語
- ☐ ポーランド語
- ☐ ポルトガル語
- ☐ ルーマニア語
- ☐ ロシア語
- ☐ 中国語 (簡体字)*
- ☐ スロバキア語
- ☐ スペイン語*
- ☐ スウェーデン語
- ☐ 中国語 (繁体字)*
- ☐ タイ語

- ☐ トルコ語
- ☐ 英語 (イギリス)

ibi WebFOCUS Client および ReportCaster

WebFOCUS Client および ReportCaster では、次のローカライズ版がサポートされます。

次の言語は、翻訳および動作保証プロセスが完了しています。

グループ 1 (完全翻訳)

- ☐ 英語 (オーストラリア、カナダ、英国、米国)
- ☐ フランス語 (カナダおよび標準)
- ☐ ドイツ語
- ☐ スペイン語

グループ 2 (部分翻訳)

次の言語では、特定のエリアのみで翻訳およびテストが完了しています。未翻訳のテキストは英語で表示されます。

- ☐ 中国語 (簡体字)
- ☐ ポルトガル語 (ブラジル)
- ☐ イタリア語
- ☐ 日本語

グループ 3 (評価中)

次の言語では、特定のエリアのみで翻訳およびテストが完了しています。未翻訳のテキストは英語で表示されます。この言語を有効にする場合は、技術サポートに問い合わせてください。

- ☐ 韓国語

ibi WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート

ここでは、Microsoft Office 製品で出力を生成する WebFOCUS レポートフォーマットのサポートについて説明します。また、WebFOCUS でセキュリティ保護されたプロシジャに動的ドリルダウンリクエストを実行するハイパーリンクの注意事項についても説明します。

ibi WebFOCUS レポートフォーマットおよび Microsoft 製品との関連付け

下表は、Microsoft Excel および PowerPoint のレポートを作成する WebFOCUS のフォーマット、Microsoft Office のアプリケーション関連付け情報、および対応する Windows オペレーティングシステムのバージョンを示しています。

WebFOCUS フォーマット	Microsoft Office 製品	Windows オペレーティングシステム
XLSX	Microsoft Office 365、Microsoft Office 2016、2019 Microsoft Office 2016、2013、2010、2007 Microsoft Excel Viewer 2007	Windows 10 Windows 8 Windows 7
PPTX	Microsoft Office 365、Microsoft Office 2016、2019 Microsoft Office 2016、2013、2010、2007 Microsoft PowerPoint Viewer 2010	Windows 10 Windows 8 Windows 7
EXL2K (機能固定リソース)	Microsoft Office 2003、2000	Windows XP Windows 2000
PPT (機能固定リソース)	Microsoft Office 2003、2000	Windows XP Windows 2000

Windows オペレーティングシステムで利用できる Microsoft Office のバージョンについての詳細は、「[Get Windows 10 App](#)」を参照してください。各 PC に対応する互換性レポートおよび PC、オンボードデバイス、アプリケーションの統合互換表示が参照できます。

ibi WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office 製品のサポート

ファイルタイプおよび Microsoft が導入したコンテンツセキュリティポリシーにより、WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットは Microsoft Office 2013 以降サポートされません。WebFOCUS の XLSX、PPTX フォーマットは、Microsoft Excel XLSX、Microsoft PowerPoint PPTX のファイルタイプおよび Office 2013 以降のコンテンツセキュリティポリシーを完全にサポートします。

Microsoft Office 2003 のサポート

「[Get Windows 10 App](#)」を参照してください。各 PC に対応する互換性レポートおよび PC、オンボードデバイス、アプリケーションの統合互換表示が参照できます。WebFOCUS 製品は、Microsoft Office 2003 のアプリケーションでも起動および使用が可能ですが、Microsoft では継続してサポートやアップデートに対応できるよう Office の新しいバージョンへのアップグレードを推奨しています。Windows XP で Office 2003 を使用する場合は、Microsoft Office 2003 および Windows XP SP3 のサポート終了についての詳細を、「[Support for Windows XP ended](#)」で確認してください。

新しいバージョンの Microsoft Excel および PowerPoint で作成したドキュメント、ブック、プレゼンテーションの開始 (ファイルを開く)、編集、保存についての詳細は、「[Microsoft Office Compatibility Pack for Word, Excel, and PowerPoint File Formats](#)」を参照してください。

ibi WebFOCUS EXL2K および PPT フォーマットと Microsoft Office Viewer 製品のサポート

Microsoft Excel Viewer および PowerPoint Viewer は読み取り専用の製品です。これらの製品では、Microsoft Excel および PowerPoint のデータの表示と印刷のみが可能です。WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットのレポートは、バージョンにかかわらず Microsoft Excel Viewer および Microsoft PowerPoint Viewer ではサポートされません。WebFOCUS の XLSX、PPTX フォーマットのレポートは、それぞれ Microsoft Excel Viewer と Microsoft PowerPoint Viewer でサポートされており、表示が可能です。

Microsoft は、古いバージョンの Microsoft Excel および Microsoft PowerPoint Viewer のサポート終了を発表しています。サポートされる Microsoft Office Viewer 製品のバージョンについての詳細は、「[Supported versions of the Office viewers](#)」を参照してください。Microsoft Office Viewer は、「[Microsoft Download Center](#)」からダウンロードすることができます。

Microsoft Office 365 のサポート

Microsoft Office 365 は、Microsoft Excel および PowerPoint 2013 のローカルインストール機能を提供します。Office 2010 に対応し、Office 2007 の一部機能にも対応しています。

Microsoft Office 365 では、Office Online を使用してほとんどのデバイスからアクセス可能なクラウドに Microsoft Excel および PowerPoint のファイルをアップロードすることもできます。Microsoft Office 365 についての詳細は、「[Office 365 for business FAQ](#)」を参照してください。

Microsoft Office 365 を使用して、WebFOCUS の XLSX および PPTX フォーマットのレポートにアクセスすることができます。最初に、HOLD ファイルとして XLSX および PPTX レポートをローカルに作成するか、PCHOLD コマンドを使用してレポートを画面に表示し、ローカルディレクトリに保存します。保存したファイルは、OneDrive for Business にアップロード、保存されます。クラウドにアップロード済みのファイルには、Office Online を使用してアクセスすることができます。

Excel Online、PowerPoint Online および Microsoft Office 2013 で使用可能な機能の違いについての詳細は、「[Office Online Service Description](#)」を参照してください。

Office Online および OneDrive for Business の使用についての詳細は、「[Using Office Online in OneDrive](#)」を参照してください。

ハイパーリンクを使用してレポートを実行する際の注意事項

WebFOCUS レポートでハイパーリンクを選択し、ドリルダウンリクエストから WebFOCUS のセキュアな Web 環境でプロシジャを実行するには、セキュリティコンテキストまたはセッション関連 Cookie の継承が必要です。Microsoft Office 製品は、Web ベースのアプリケーションが作成したセキュリティコンテキストまたはセッション関連 Cookie を継承しません。

次のオプションは、WebFOCUS レポートのハイパーリンクが Microsoft Office 製品内で機能するよう Web 環境を構成するために使用されます。

- ❑ 匿名アクセスを許可するよう WebFOCUS 認証を構成する。
- ❑ SSO を IIS/Tomcat Windows 統合認証とともに使用する。再ネゴシエーションが自動的に発生し、Excel および PowerPoint レポートが正しく表示されます。
- ❑ WebFOCUS バージョン 8 以降では、[ログイン] ページの [ユーザを記憶する] 機能を有効にすることができます。エンドユーザが [ユーザを記憶する] 機能を使用した場合、永続 Cookie が使用されます。Microsoft Office 製品のセッション関連情報の処理についての詳細は、「[Error message when clicking hyperlink in Office: "Cannot locate the Internet server or proxy server"](#)」を参照してください。

ibi WebFOCUS の DOC フォーマット

WebFOCUS ドキュメントのスタイルフォーマットおよび印刷可能なフォーマットの標準は、Acrobat PDF フォーマットです。WebFOCUS の PDF フォーマットは、Acrobat PDF ドキュメントを作成します。WebFOCUS DOC フォーマットは、Microsoft Word ドキュメントではなく、文字ベースのファイルを生成します。

Legal and Third-Party Notices

SOME CLOUD SOFTWARE GROUP, INC. (“CLOUD SG”) SOFTWARE AND CLOUD SERVICES EMBED, BUNDLE, OR OTHERWISE INCLUDE OTHER SOFTWARE, INCLUDING OTHER CLOUD SG SOFTWARE (COLLECTIVELY, “INCLUDED SOFTWARE”). USE OF INCLUDED SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED CLOUD SG SOFTWARE AND/OR CLOUD SERVICES. THE INCLUDED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER CLOUD SG SOFTWARE AND/OR CLOUD SERVICES OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF CLOUD SG SOFTWARE AND CLOUD SERVICES IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF AN AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED WHEN ACCESSING, DOWNLOADING, OR INSTALLING THE SOFTWARE OR CLOUD SERVICES (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE “LICENSE” FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE SAME TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of Cloud Software Group, Inc.

ibi, the ibi logo, ActiveMatrix BusinessWorks, BusinessConnect, Enterprise Message Service, FOCUS, Hawk, iWay, Maporama, Omni-Gen, Omni-HealthData, TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, TIBCO Administrator, TIBCO Designer, and WebFOCUS are either registered trademarks or trademarks of Cloud Software Group, Inc. in the United States and/or other countries.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only. You acknowledge that all rights to these third party marks are the exclusive property of their respective owners. Please refer to Cloud SG’s Third Party Trademark Notices (<https://www.cloud.com/legal>) for more information.

This document includes fonts that are licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1, which is available at: <https://scripts.sil.org/OFL>.

Copyright (c) Paul D. Hunt, with Reserved Font Name Source Sans Pro and Source Code Pro.

Cloud SG software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the “readme” file for the availability of a specific version of Cloud SG software on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. CLOUD SG MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S), THE PROGRAM(S), AND/OR THE SERVICES DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME WITHOUT NOTICE.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "README" FILES.

This and other products of Cloud SG may be covered by registered patents. For details, please refer to the Virtual Patent Marking document located at <https://www.tibco.com/patents>.

Copyright © 2023. Cloud Software Group, Inc. All Rights Reserved.